







門々良5  
第375  
卷1-2

夫軍を天下に獨りたりて天理を以て成す所  
は海治通乃とひたりて私利を以て  
紀河を魔術亡國乃とひたりて能くは  
一軍より物中後ありて和を物こ  
地を中こして天の雨と後と多まことよ大國  
を治りて小群以て意りふと一況合戦したる  
にや



軍法極秘傳書一目錄  
大平之卷

己上七ヶ条あり

人殺押之卷

- 第一 押市を知らず
- 第二 未のしり押屋あり
- 第三 腰告糧三ヶ所あり
- 第四 觸目之通法あり
- 第五 二ヶ所押事
- 第六 小石能押あり

- 第七 相違ふ公認あり
- 第八 指燈あり歌あり
- 第九 細門あり
- 第十 足敷あり
- 第十一 弓矢絶て人組あり
- 第十二 一夜陣あり
- 第十三 敵地より遠くあり
- 第十四 大川能相あり
- 第十五 ぬき能相あり
- 第十六 山收て大将必死あり















五將を人のあそびに  
相違なく人さしに依りて  
入る敵をうらめた根をうた  
かしこむ

仁義をこころみよのこ  
任をこころみよのこ  
うひく敵をうらめた根をうた  
村はこころみよのこ  
こころみよのこ

賊のしるし人よ  
人二三人をうらめた根をうた  
そこの河を敵味  
るみ敵味  
地をうらめた根をうた  
あつしやなま  
かこむ敵をうらめた根をうた  
あつしやなま  
あつしやなま







人のまをささかまらむと利よく道にたてし  
物を万民ふうこころしむるのよと切腹とて萬民を富  
樂よし釋家孤獨すくをこころし餓寒ふをこ  
恥人もなくこくはまをささてせし人ふたもたれ  
歎咽のうらよむとこがつら悲れあるやうに  
如くらしきころはは海なる事よるをこころし  
天の河城のく歎ののよと天の河と日とりの  
方角をさうり四季陰陽を考こころし融城を取かこ  
けこ水とせしむしがすしと日とむかこころし  
いし事ク要かり天の河と地と利がはるねなり  
地と利といふおくら地飛く城陰陽かこころし  
言く傳矣念りけりかうに地がとらとこころし  
かりら移胞うの介或具馬具きくいん兵糧  
もみらく水はひまもはとねをいふは地と利  
ふくきくわんも禱奉の心をこころし経お城紙  
すく産けり治末をすくありおれ勝事をほ  
ねののま地と利もまこころし人ぬかぬがらけ  
人の和こころし事と道と道ふたこらひ罪を人  
の死をゆるし人の罪を解人のうまこころし  
そひ民こころしひとたからふこころし命城事終る



霧にしからぬに人をおいしあはれは  
かゝるもてけ多しと天理をわらむ  
すけとくおとれと海若程あし  
きとくしげきとけあまゆさの  
かひとあしからすことあ事か  
あはれとけあししひくか  
美河あらしに勝天なるは  
たよとけいしよふあ子るた  
かたぬたうし

人教押之巻

才一押前を知り

一 味方北と大日百引とくとうし  
入前日物見を下り明日押前北送を志す事  
才一あり右はりの見立ゆり  
小はしゆ板をを結うし  
かたし是よりか  
川少流小波あり休を  
ふせうらげ常信をけふ小人  
さしすうけを憐あはる







主人の糧をみどりおせしき所は建山といふ  
てつらきものなりし所は乃日食のふくことなり  
せしことししわらしがさあから騎のふく白米を  
米を食す味を死にゆらりつらきことしあふり  
粉はあま痛ふけらなりし所は乃日食をり糧  
はさこの用なりしつらきことしあふり

才四 觸貝二通り

一 幸書貝夜八食を喰二書貝夜八て乃ぶしら一を  
は二書貝ありけらの貝二一層ふらりし人殺押  
かり貝一通り二吹死三層合九吹三通り九死三  
層合九二九七かりし二書貝ありしら  
油のふらぬかり

才又 二の押

一 小軍を一りし押屋一 大軍は二通り押給  
取かく果しなりし二の押一に揚を道紙  
りふたなりし一人なりし一人のりし廣い道  
なりし又二のりし一人のりし一人のりし  
に河より志重一人草履を一人馬より一人を  
印を押ししをいしにあはせしは二の押の中  
を通りし神にしるる入るなりし







才九 細門の事

一 惣傳は勝ふ善細門一筋に死なむらなり小庵  
がけり以て感歎のり方事不用又ほりの大綱十筋  
のりもいふに命しめらるる多きなりら  
くいなるも物とを

才十 黒嶽の事

一 將た親人の淋を思ひなりふくく六百丁と手挺し  
調ねくものあり押前道をはかり又小庵より  
信房百事不用道なり小は是様二人の思嶽の金  
走人の死相後こいふら

才十一 弓矢砲火人組の事

一 弓矢砲火人組一人死奉りを付道切ふを  
こいふり候をいふ又一人の用ありて腰エラトキ切を  
弓矢砲石は事り物と共立ゆは相渡はさそ  
矢砲うきとら何といふなり兼らみ手はさ  
し方事ふし

才十二 夜陣の事

一 小庵のありとあらぐとから親ゆりり木を  
やとさやうに候るし三日と遅るは河の念  
かこく小庵より肝要



才三 船此少くはなれ事

一 竹木みづらふ切らり市町少く餅酒極とを飲  
喰液を解らむと氏家一りらしかう出く禁制を  
なすり大ぬの沙行歌をゆけとみ融まへ人民  
くふく心あらむとせぬものなりしと下こ  
らしかうにうららまじい倭の甲子式はなれ事  
事一 変しとをし

才十四 大川越相事

一 ことし流らむとささるる庭よりしんじはかめ  
バ何きりしと取のけを後川とらしくしりこ

一 下第一細いを有川むひひ一川後しををう  
川と大網をむらひけりうらむとむひのま  
小乳板をうら川ふよ共物川わよこます  
かひよ川とらむ相い網と五身と後をくしを  
網より下手かえり流くあらふしり請り小物結  
川後とと大ぬも後より川下へつあよなぐ  
武若うりはくを

才十五 沼越事

一 足子より相寄り籠をあらむと籠を縁と  
らめ出留候とくこのつく後竹木と切ら借







究竟も二百三十九人ありあはるはつかく書る  
その間も若くは書りしはるを記すなり

才十八 野伏の事

一 山陰茂林心しとる伏所をた物人を御りやう  
をたん定ぬ法地をうらかあ伏を逃らうし物  
押さうりもて騎馬三三人弓法地三平極  
たさくしと人殺をた押さうり

才十九 首下細道切返し押事

一 山、一足控え六人死をたあけ伏せさつ  
しと押さうり又法地騎馬入ませく

おさくし伏さうり弓法物をやりと  
しと押さうり又法地騎馬入ませく  
取さうり

才廿 法平夜馬の押事

一 道り入、いふを神妙に押さうり  
り法地法平さうり事もさうり又陰阻の  
り道さうり上いさうり下首丈さうり  
地さうり初も成るさうりし伏い  
つくさうりあかりさうり伏さうり  
法平さうりさうり法地さうり







才廿三又大雪の事

一 東海又兼南海西海山陽乃軍小雷中ハ所のみ  
クありふなりししもやじりそ大雪よりぬ地なり  
しとひ一尺六寸なりてことごとく終よりなりてい  
ぢらなりをむじそ小浪山陰道は手つらひひく  
を危し雪國ハ若ハ雪は音ふせは子達共  
なり地ハ大雪不兼因れ由より押くる事又雪  
國よりをむじ陽玉ハのちくしんこといふこと  
ハ五より通形不如意しては危るくは  
極暑極寒のたうい私漢古ふふの事なり

才廿四夜の川越の事

一 弓矢ゆきし押さくは松松平古繩ハ出矢つあ  
み六尺乃竹はゆきしちくまきく高くはしあけ又  
矢炮をかるり官ハ切出繩を極はし越色し  
るありそふく火をよむきくその用心より火  
にやりを人通くと目あてふそを敵の矢はあはれ  
こそせんふくそあり

才廿五敵をせく川越の事

一 川向ひ敵あり相さく相せくは事命ふり  
危くはししやうは手たてとあらしむるあり







第九

第九

小屋入しそ早食調

第十

徳道具面振

第十一

小屋入りし小身物

第十二

馬屋付るるる

第十三

陳中物見屋

第十四

なかり捨か

第十五

敵乃大さ

第十六

法書

第十七

印多

第十八

陳中

第十九

陳中

第二十

相

第二十一

陳中

第二十二

高人

第二十三

陳中

第二十四

名を

第二十五

い

物見之巻

第一

物見

第二

もの見馬



諸奉行之巻

第三  
第四  
第五  
第六  
第七  
第八  
第九  
第十  
第十一  
第十二

天子御使の  
伏見見守の  
御旗本の  
御中乃融かる  
かぶる融を  
融は融を  
融は人救  
融は融を  
遠る融を  
武者言集

第一  
第二  
第三  
第四  
第五  
第六  
第七  
第八  
第九

武者あり  
同なり融を  
同なり目  
同なり人救  
弓方將の  
弓方將目利の  
弓中融を  
弓方將の  
融砲方將























一 けいり外へ通ふは三つはひりかゝるは  
しる物とありけし物の内へはほつちる物とあり  
こころすつちまふおつちりきる物とくみらたか  
しふくは物とくつちりらる物とあり  
よしく見や

才十六 法書抄

一 女かこころこころの中かこころまぢりののたか  
りり騎る二騎中活玉をなす一毛もつ海り  
むらり番留りたれり融あひの物とを  
お達のころあり時とるの中活中活しちり  
可憐の事しちり

才十七 外抄

一 融あひりり融あひりり融あひりり  
をこころこころ又二可目一騎馬つる宛玉と  
融あひりり融あひりり融あひりり

才十八 陣中抄

一 歩の者を二三人宛一町帯りふらふ今らと  
るこころこころの非ハ騎るをみまら宛玉と  
町からふびとほり融あひりり  
うたの目とみまら人陣外ハ騎る木人も十三人



第九 陣中在陣集の事

一 陣中陣非をふらふよふふあふ用なきしひふ集あふ  
つらふく又侍の家この紋状をうらしふ集あふ  
あめふふふみせわこし出をこふかありく  
敵は君ひこまふふふふふふふふふふふふ

第十 陣中在陣集の事

一 陣中陣非をふらふよふふあふ用なきしひふ集あふ  
つらふく又侍の家この紋状をうらしふ集あふ  
あめふふふみせわこし出をこふかありく  
敵は君ひこまふふふふふふふふふふふふ

一 陣中陣非をふらふよふふあふ用なきしひふ集あふ

つらふく又侍の家この紋状をうらしふ集あふ

あめふふふみせわこし出をこふかありく

敵は君ひこまふふふふふふふふふふふふ

あめふふふみせわこし出をこふかありく

敵は君ひこまふふふふふふふふふふふふ

あめふふふみせわこし出をこふかありく

敵は君ひこまふふふふふふふふふふふふ

第十一 陣中在陣集の事

一 陣中陣非をふらふよふふあふ用なきしひふ集あふ



一 次弱つるはの者は以平を力とせやく登るりの運取の  
うは平を少初結平ふさしうらうら

才女二商人陣中ふたふ事

一 我玉よりつまこく事らうらうらしおの商人をこむよ  
味をわくくすき強人を五屋しむと商人入  
ふたて融高んよまうら内を見こ又商人陣中  
ふたて融高んふたて融高んふたて融高ん  
うらうらしとらうらうら

才女三陣中ふたふ事

一 陣中ふたふ事けいせい又ふくちふたふたをくひと  
厚の所を味く敷軍はとらうらうら出法屋をせ

才女四水をもりの事

一 節陣の時ししをさつあるおとひくを地を割を  
付たうらおとたうらをかさつしうらうら水茶  
すの柳はもやもらんくしうらうらの水茶  
ありら官をたしんくからるしうらあはむのさうら  
又うらありさうら水茶あはむのさうら  
しあむおらあはむのさうらあはむのさうら  
あはむのさうら

才女五いくやう事



















ふけりていふはつらつとあつた

才八歌は地味をかたむく

一 融乃志の志川より北橋をこえり北橋をあら  
く一 浮物を取らば立地とすを能くし子をせり  
るく諸道具を立寄り人取らるりの所あるに  
符をあたはるは北橋より先かこりありて  
こまのうらむ融乃志の志川より北橋を  
あらくしをこりて合流より北橋をあら  
融乃志の志川より北橋をあらくしをこり  
あらくしをこりて合流より北橋をあら

才九歌は人取の事

一 融乃志の志川より北橋をこえり北橋をあら  
く一 浮物を取らば立地とすを能くし子をせり  
るく諸道具を立寄り人取らるりの所あるに  
符をあたはるは北橋より先かこりありて  
こまのうらむ融乃志の志川より北橋を  
あらくしをこりて合流より北橋をあら  
融乃志の志川より北橋をあらくしをこり  
あらくしをこりて合流より北橋をあら



つきしん致知のきよははるる所ありましし二万石  
上將上國の長は元六七騎中國廿三三騎十將十士  
廿六騎又上ねお借を是時と申おのまきの雅  
そ家中の難人うら合騎をきんよ廿六人の中ね  
騎をきんよ難人廿二人の中ね騎をきんよ難人  
様をらんめのおれとくよ様おれし

才十 敵飢を我を知事

一 敵をたひとまき糧をかしこむは軍法禁制せら  
しかりけふのし又難をあるとたつと杖をと  
らさむつしらしらさく地まじなるとさうかあひ

らうしあましと目くころ敵はあかり茶うらの  
びくの中へ味もこのひどつり敵方の難人は酒  
をこのやせあひつめおとここまうよんをさるる者なり

才十一 遠く敵をみる事

一 敵あひす所を十三所と危くしは軍とてき所ふ  
いみせあつしとつらうらうらよははひりより物人をや  
り敵あひの法にあらはれくをさうりして後へ留  
うしあましと近き色のあ材を軍なる立ちあつを  
こくよん定めてあ所をたつと備をたつしと  
をとりうらうらをさうりすし捕り候よ白海色



















えおきうしうみむらり肉と雨出縄うらうと物やう  
ふ道将たよらひむらりもあこ又雨うの用をふは  
かりしはもくふむらりむらりしちかきし一羽いむを  
あけ糸線なすおへし一むらりまし火をうらうたき  
ふとまへし一は幕た肉のちるこの火口をさし一たを  
こしぬ屋しむらり

才十 同族炮大ねるす

一 族炮大ね、敵合を日と三ちを逐三町せうらむらうし  
すへしを泥河いむらりしとくしうらくま業をうらむら  
いしとまはば幕幕幕らうく同らうしむらぬらうらうら  
一 族炮うらなうのものはうらうらとをあうら海と  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
ふとむらりあうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

才十一 軍前族炮るす

一 族不族炮を逐敵あひ三町れ肉非をた合三  
すしと族炮は版よ立軍前二版を杉兵を治すり  
むらりうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
おへしうらうらうらうらうらうらうらうらうら



うらやううらやうと云ふは又法地三十一  
挺がこしつらう多長いよあらく油をこ融合二  
可き見らるるの法地うらうひた三尺十挺つひ  
いりる國業いりるをこしつらうあらくこしつら  
いりるをこしつらうあらくこしつらうあらくこ  
あらくこしつらうあらくこしつらうあらくこ  
ひ融とうらうあらくこしつらうあらくこしつら  
ひらうあらくこしつらうあらくこしつらう

才十三 法地軍たる

一 法地ふり利をらんよこしつらうあらくこしつら  
うらうあらくこしつらうあらくこしつらうあらくこ  
こしつらうあらくこしつらうあらくこしつらうあらくこ  
あらくこしつらうあらくこしつらうあらくこしつら  
軍をいりこしつらうあらくこしつらうあらくこしつら  
しあり

才十三 川越法地たる

一 融味方川を備対法地を折付を味方平乃  
法地を中一のふりこしつらうあらくこしつら  
六百丁よ武業いりるをこしつらうあらくこしつら  
千丁のこしつらうあらくこしつらうあらくこしつら















軍法秘傳書 三目錄

第一  
第二  
第三  
第四  
第五  
第六  
第七  
第八

方圓の不在なるは是なり  
六花の不在なるは是なり  
五輪翼道の不在なるは是なり  
徳信公の陣小の陣小なり  
甲斐信玄公陣小の陣小なり  
秀吉公八陣の陣小なり  
露翼の陣小なり  
雲としの陣小なり

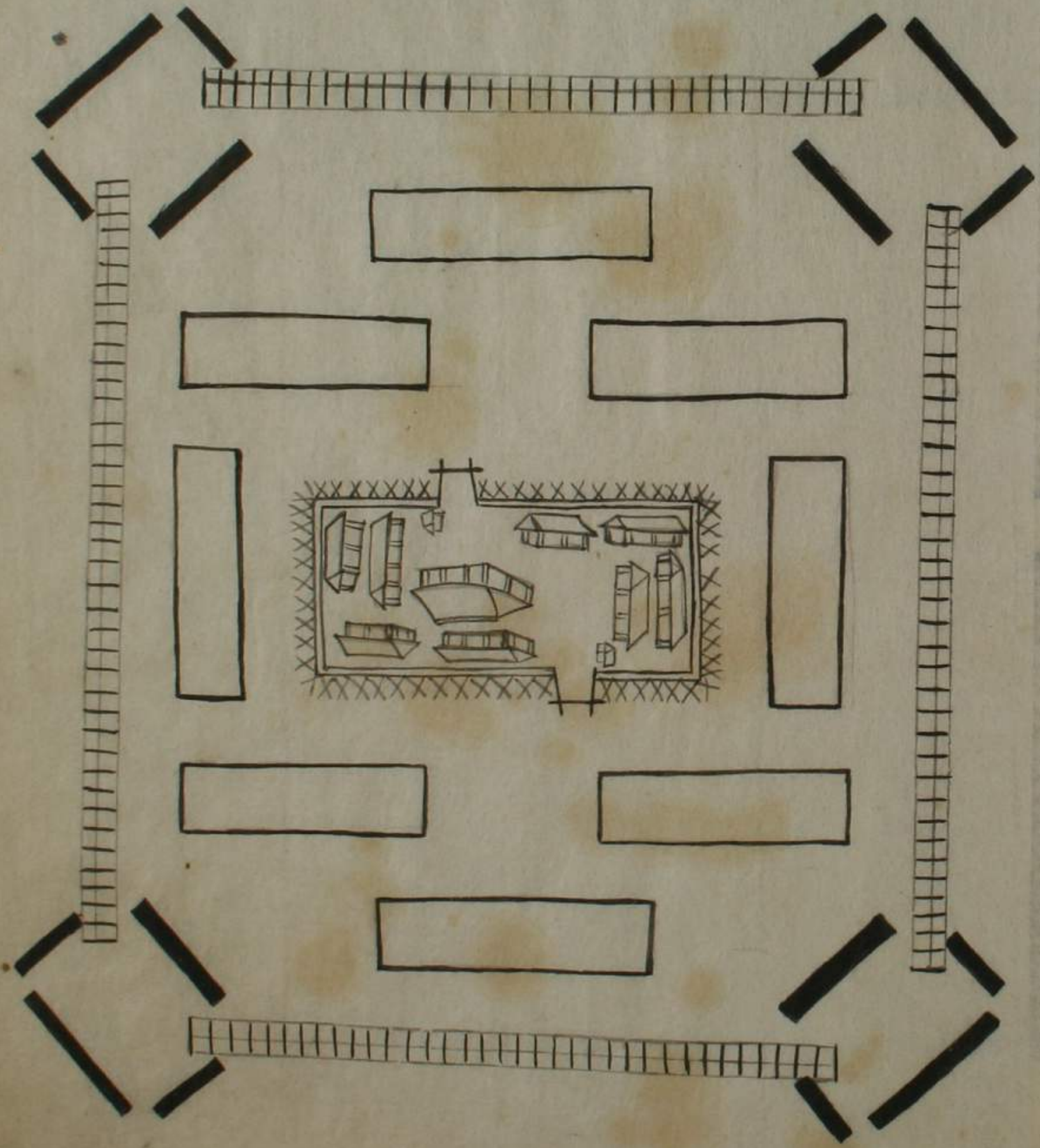
*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*







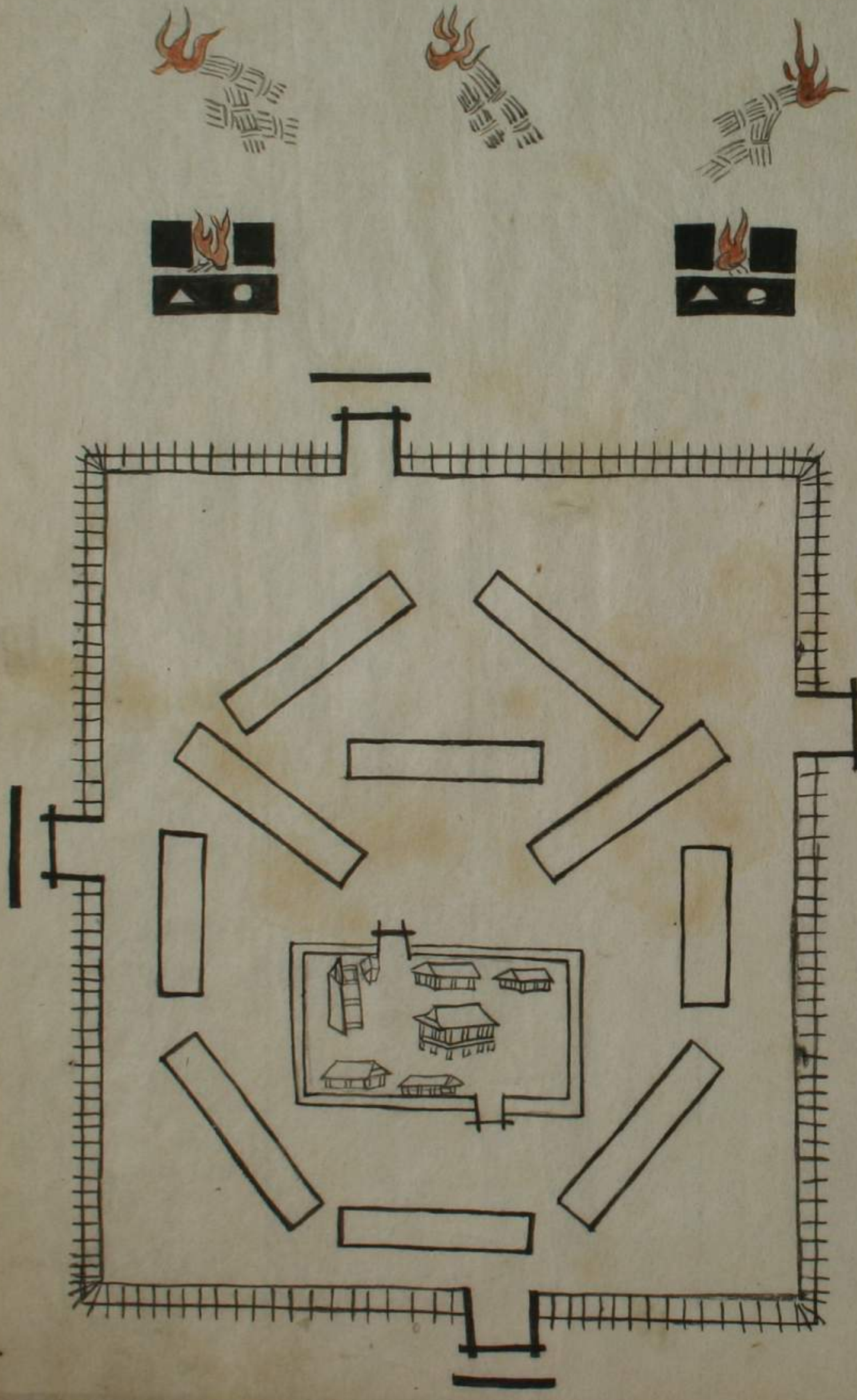
方園之卷之



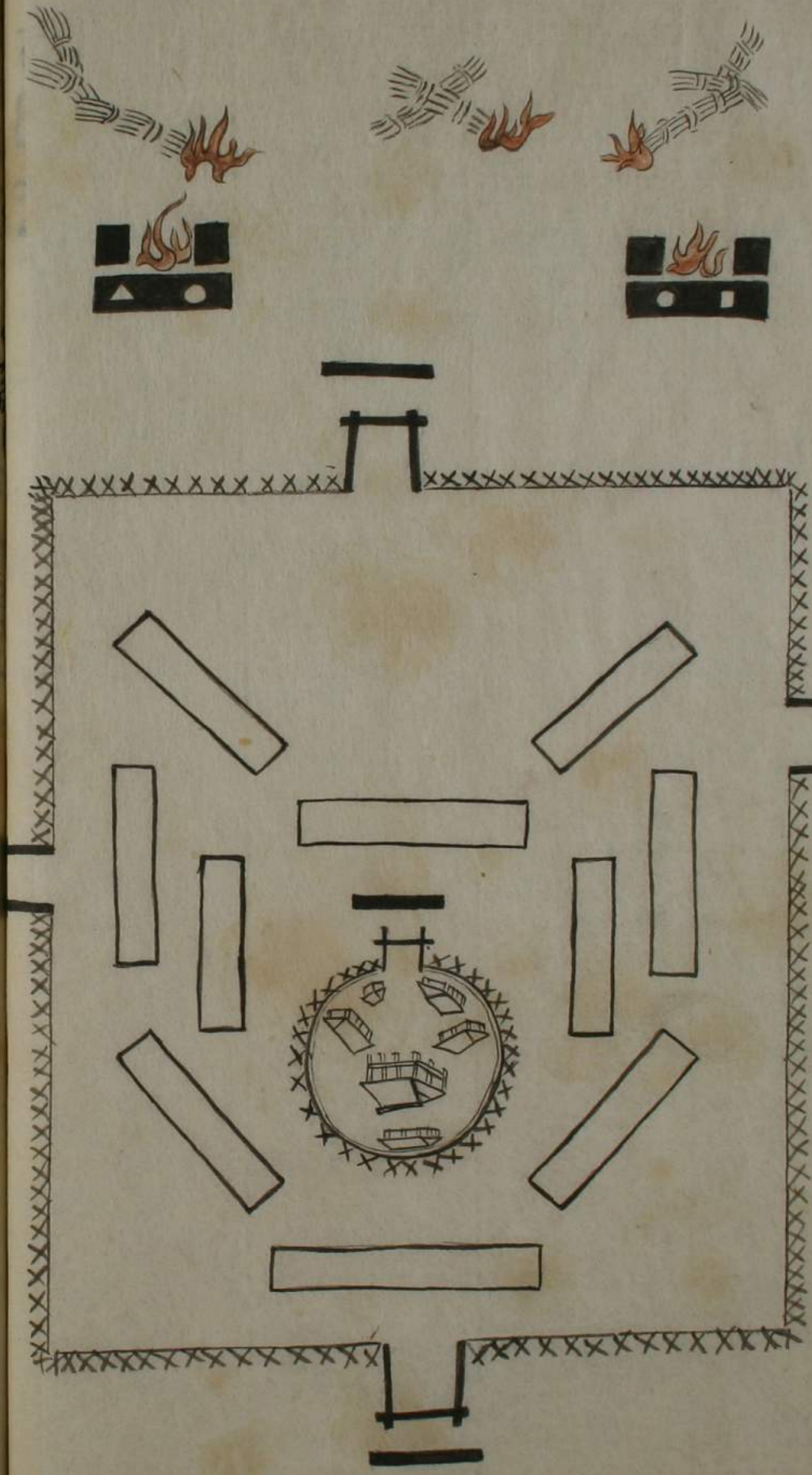
第廿九  
第廿八  
第廿七  
第廿六  
第廿五  
第廿四  
第廿三

りんとうたつら  
かごゆら  
露野直しつら  
六花今ふら  
なげら  
つら  
疾風あら





鶴羽異直小屋取



六花之小屋取

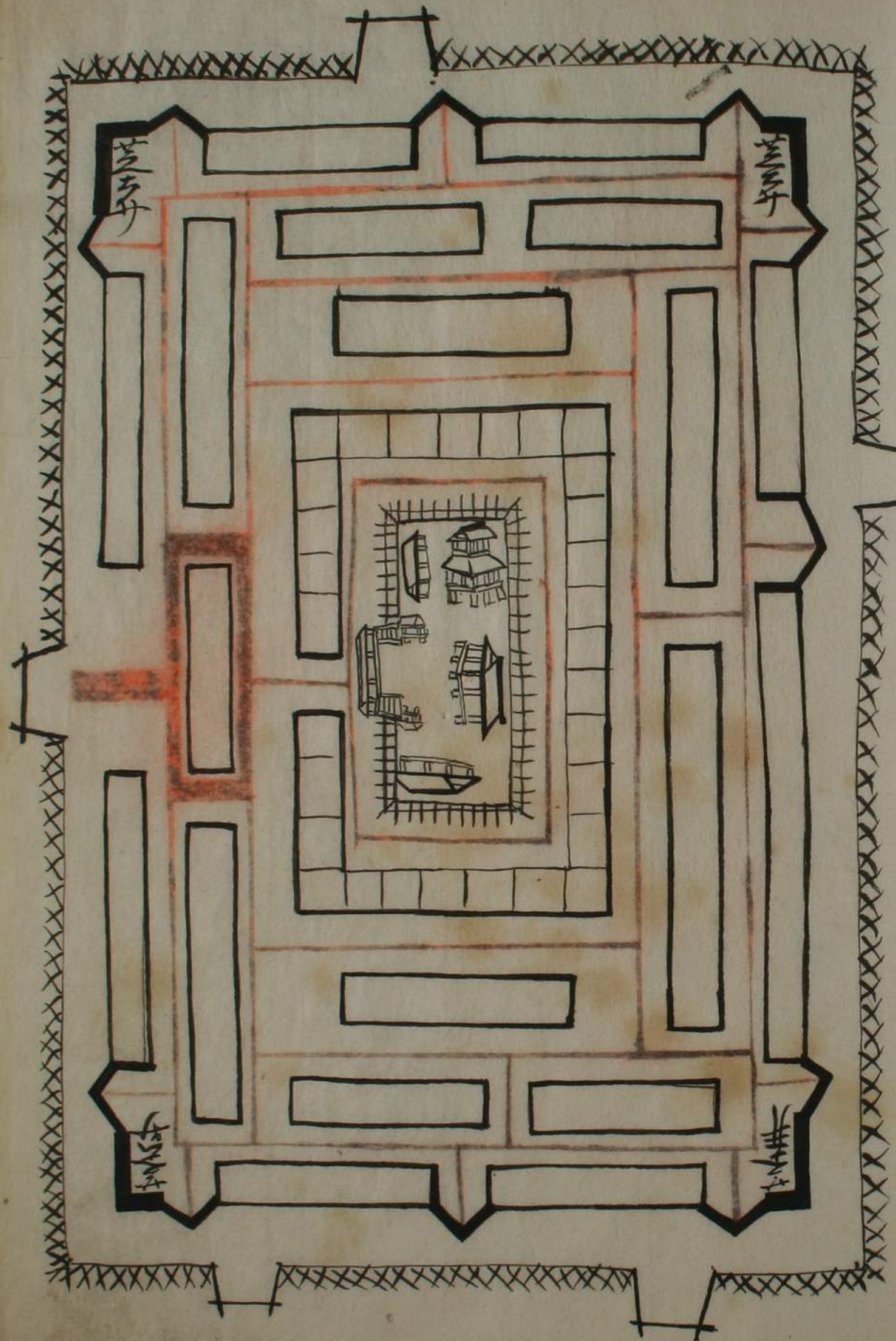
木子衛公相傳











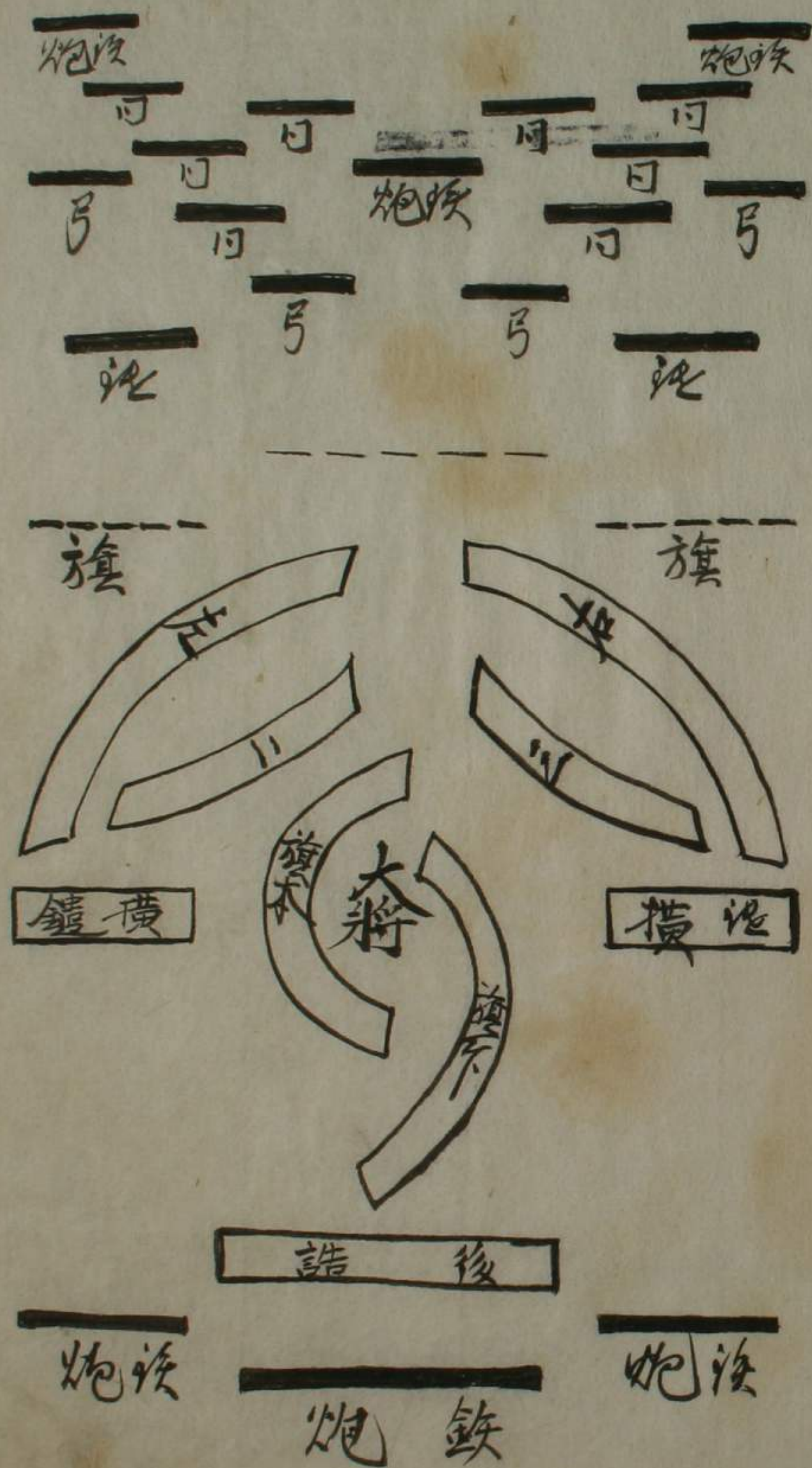
一 宋勅助相傳<sup>マ</sup>及馬場義濃守原集人佐西人被御附陣城如  
 此是敵城向付城討陣<sup>ニ</sup> 吉山左之如此也此前<sup>ニ</sup>先衆二先照後  
 備有<sup>ニ</sup>是是<sup>ハ</sup>木陣計<sup>ニ</sup>  
 一 惣廻之垣少屋之間復<sup>ハ</sup>心<sup>ハ</sup>元<sup>ハ</sup>向<sup>ハ</sup>春秋<sup>ハ</sup>分<sup>ハ</sup>別<sup>ハ</sup>在  
 一 廻篠垣<sup>ニ</sup> 亦<sup>ハ</sup>カ<sup>リ</sup>リ<sup>ニ</sup> 銘<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>長<sup>ハ</sup>少<sup>ハ</sup>高<sup>ハ</sup>  
 一 小口<sup>マ</sup>テ<sup>リ</sup>、<sup>ニ</sup>他<sup>ハ</sup>四<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>角<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>傳<sup>ハ</sup>陣<sup>ハ</sup>屋<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>道<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>此  
 一 武者奉行旗奉行持鑓<sup>ヲ</sup>相<sup>シ</sup>認<sup>シ</sup>テ相<sup>シ</sup>言<sup>ハ</sup>氣<sup>ヲ</sup>分<sup>シ</sup>出<sup>ス</sup>也、<sup>ハ</sup>  
 夜<sup>ニ</sup>ニ<sup>テ</sup>當<sup>リ</sup>足<sup>レ</sup>徑<sup>ヲ</sup>夜<sup>ヲ</sup>見<sup>ル</sup>、<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>中<sup>ニ</sup>テ<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>祝<sup>ヲ</sup>申<sup>テ</sup>改<sup>メ</sup>也、<sup>ハ</sup>  
 詰<sup>テ</sup>ヨ<sup>リ</sup>ヨ<sup>リ</sup>取<sup>テ</sup>陣<sup>中</sup>ヲ<sup>編</sup>之<sup>也</sup>  
 一 朱<sup>色</sup>の大小<sup>の</sup>道<sup>之</sup>墨<sup>色</sup>の内<sup>の</sup>陣<sup>抄</sup>也<sup>之</sup>  
 一 右<sup>甲</sup>波<sup>に</sup>は<sup>云</sup>公<sup>の</sup>陣<sup>抄</sup>也<sup>之</sup>



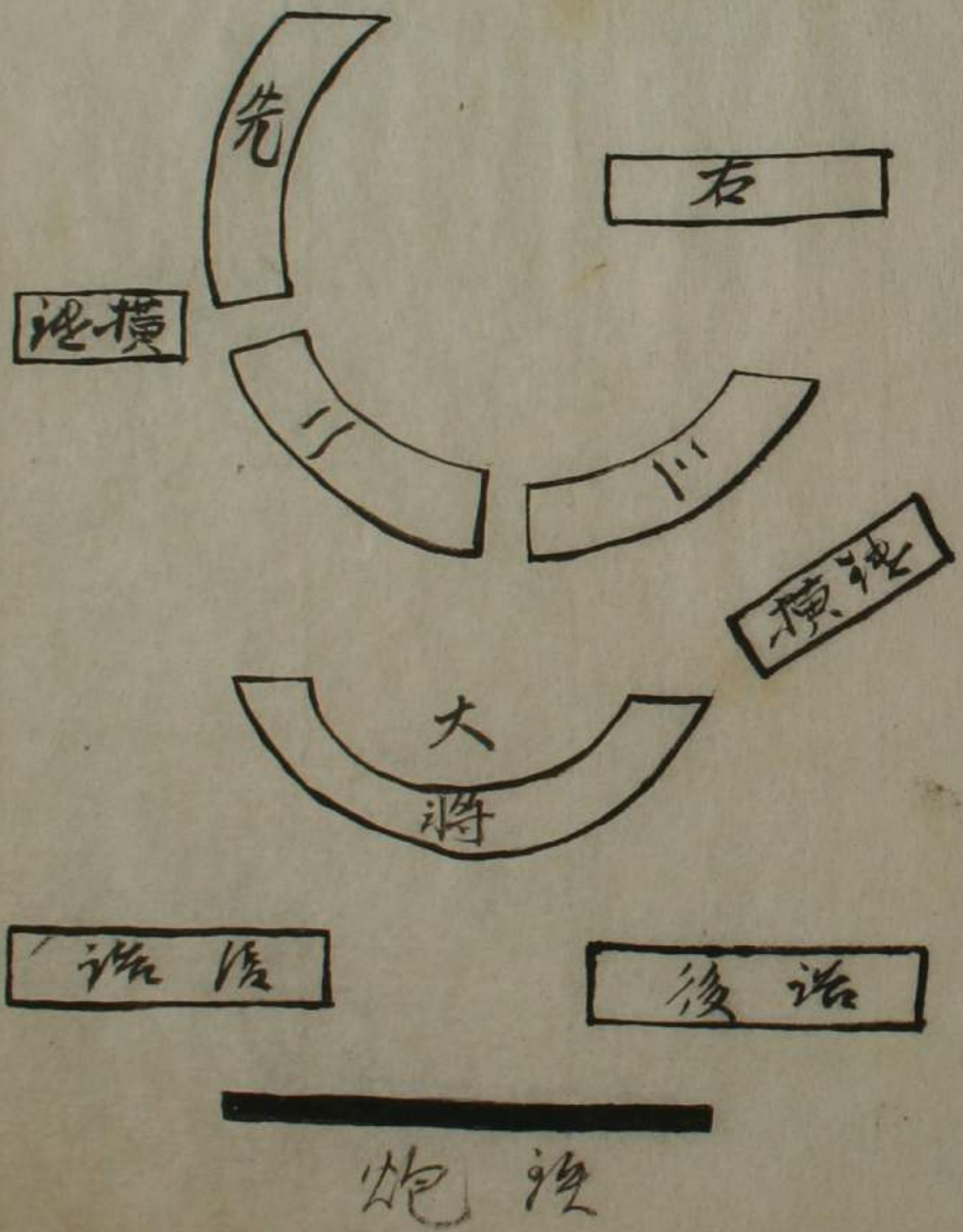
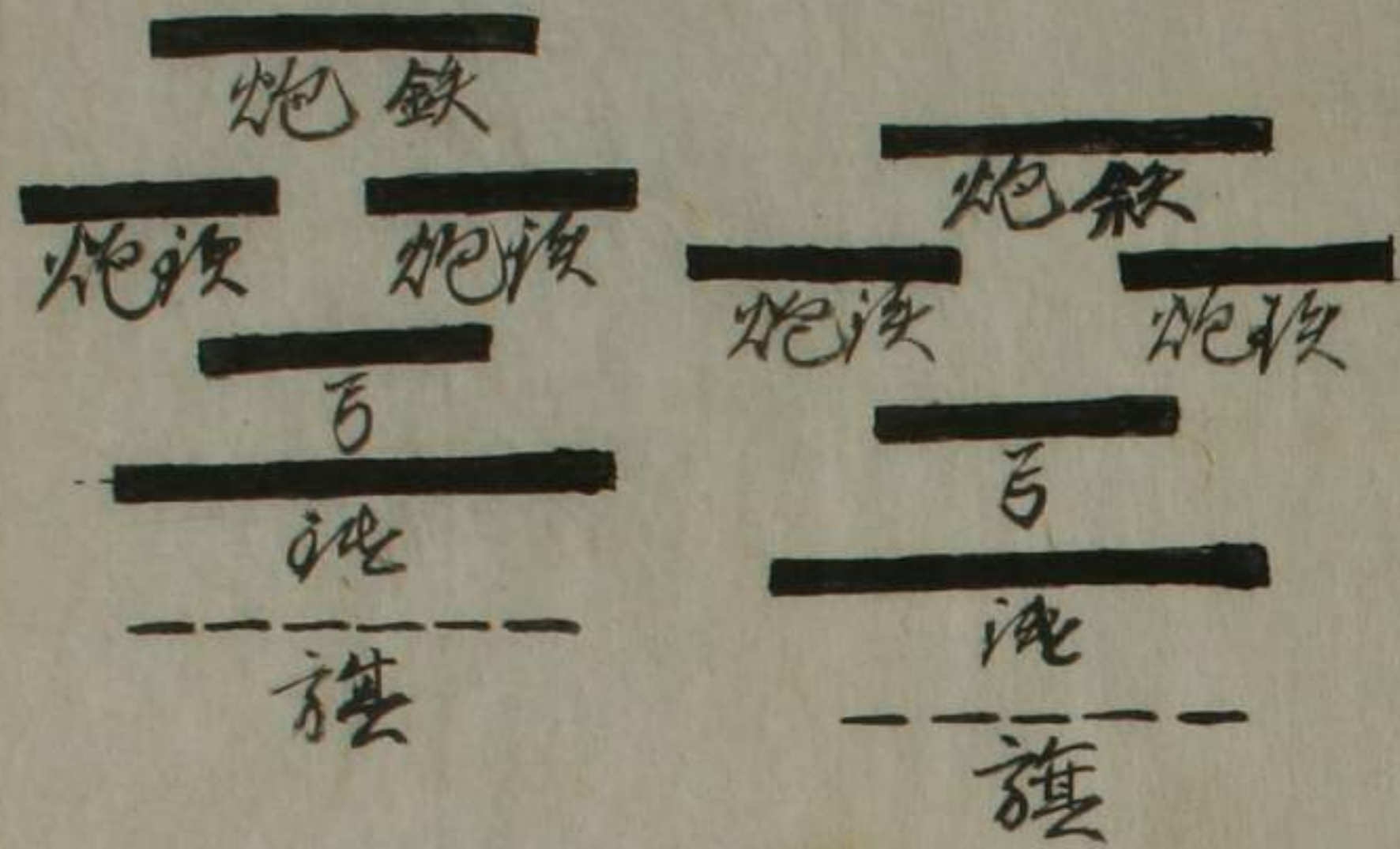
一右陣ヲ以テ是ヲ割ル作中羊兵衛御  
 仰身改テ少屋水人

新將之備

此備之將編執打

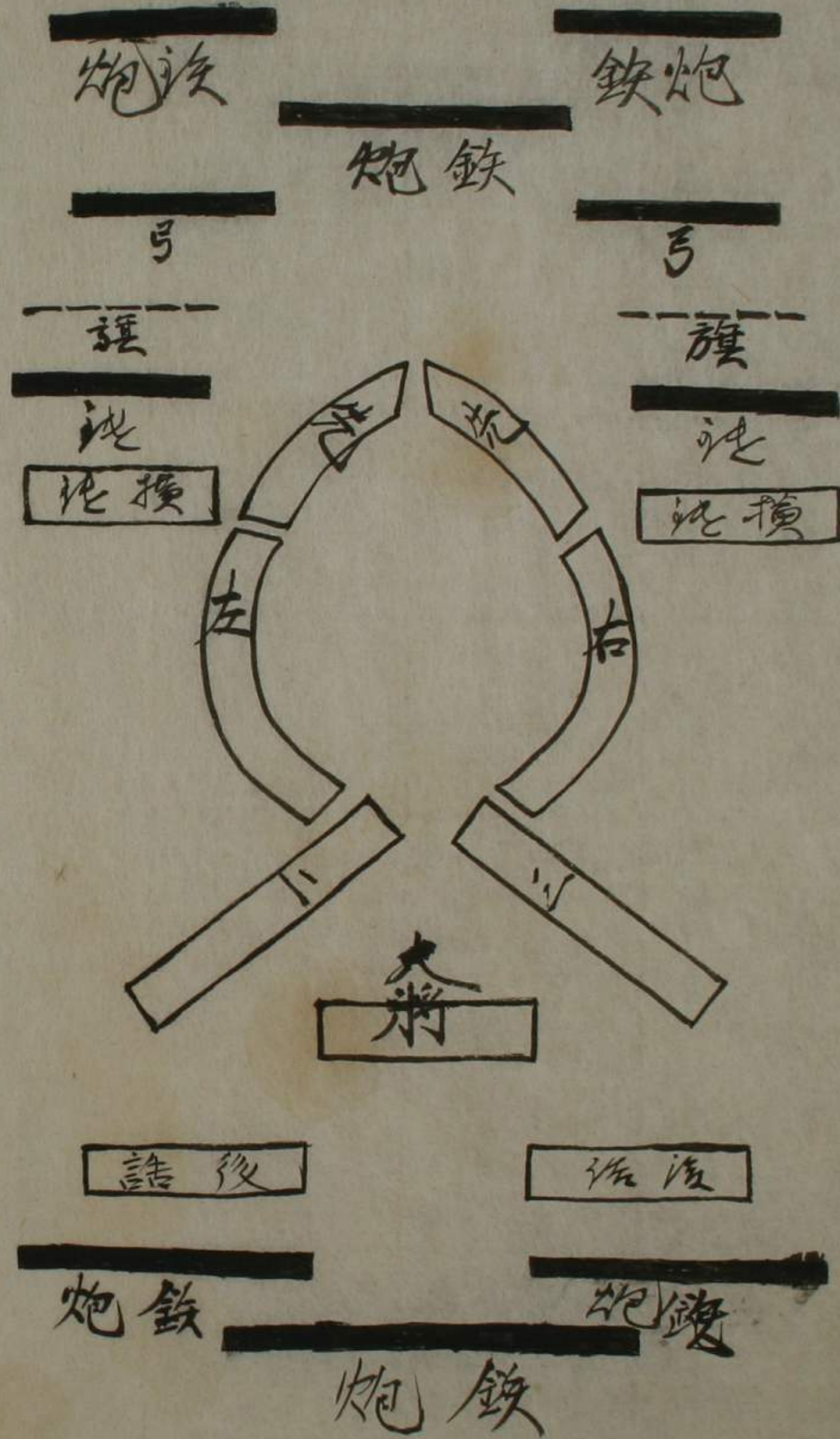






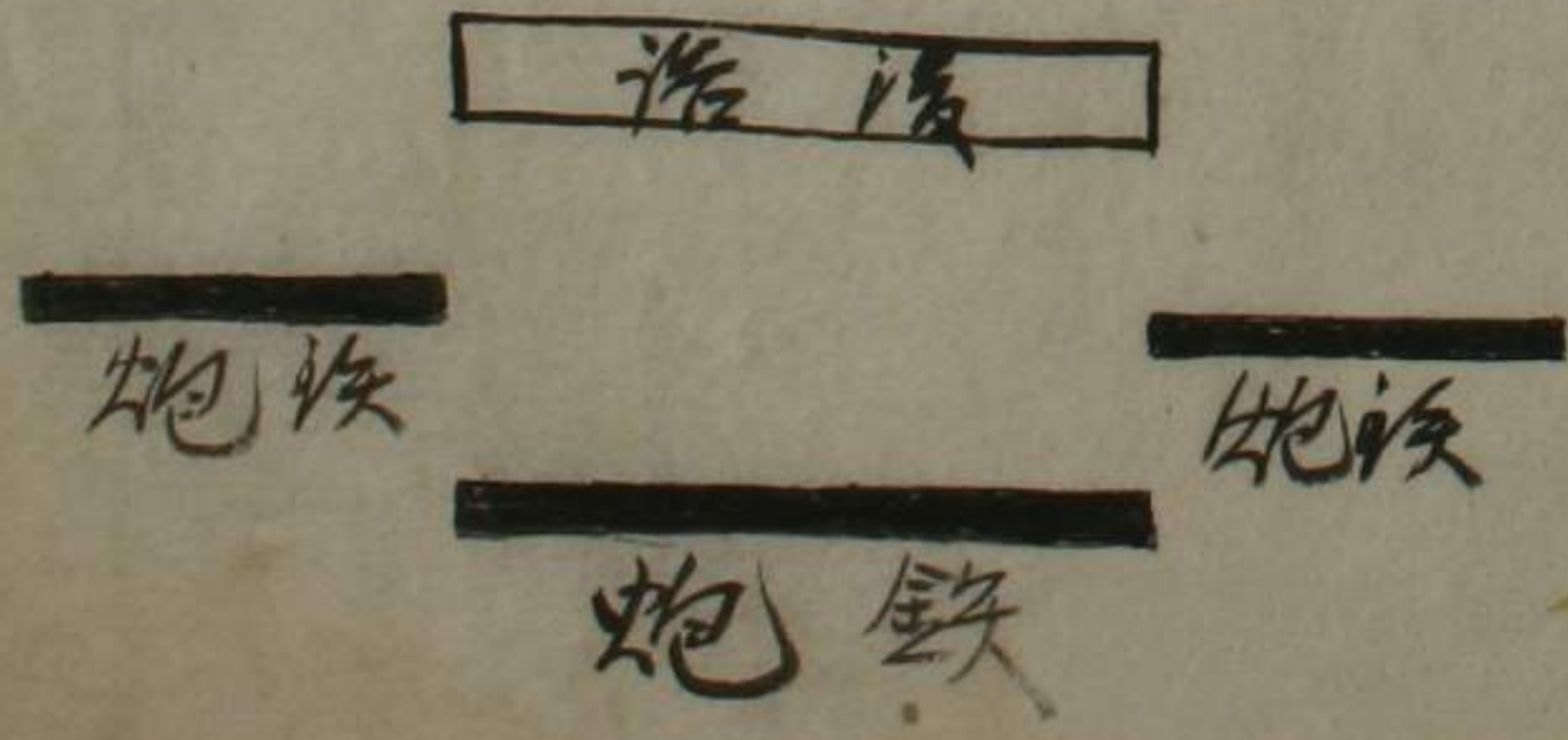
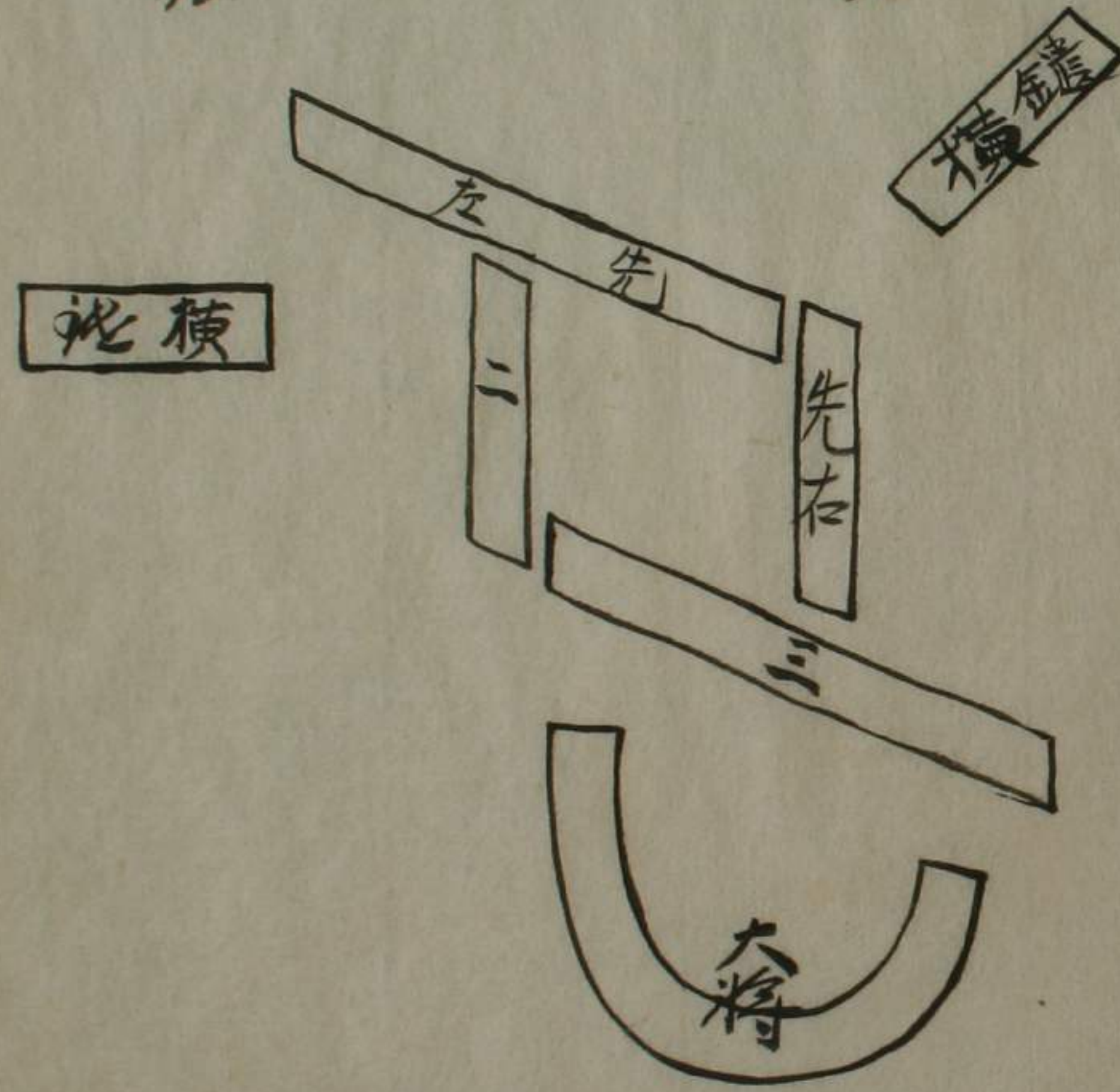
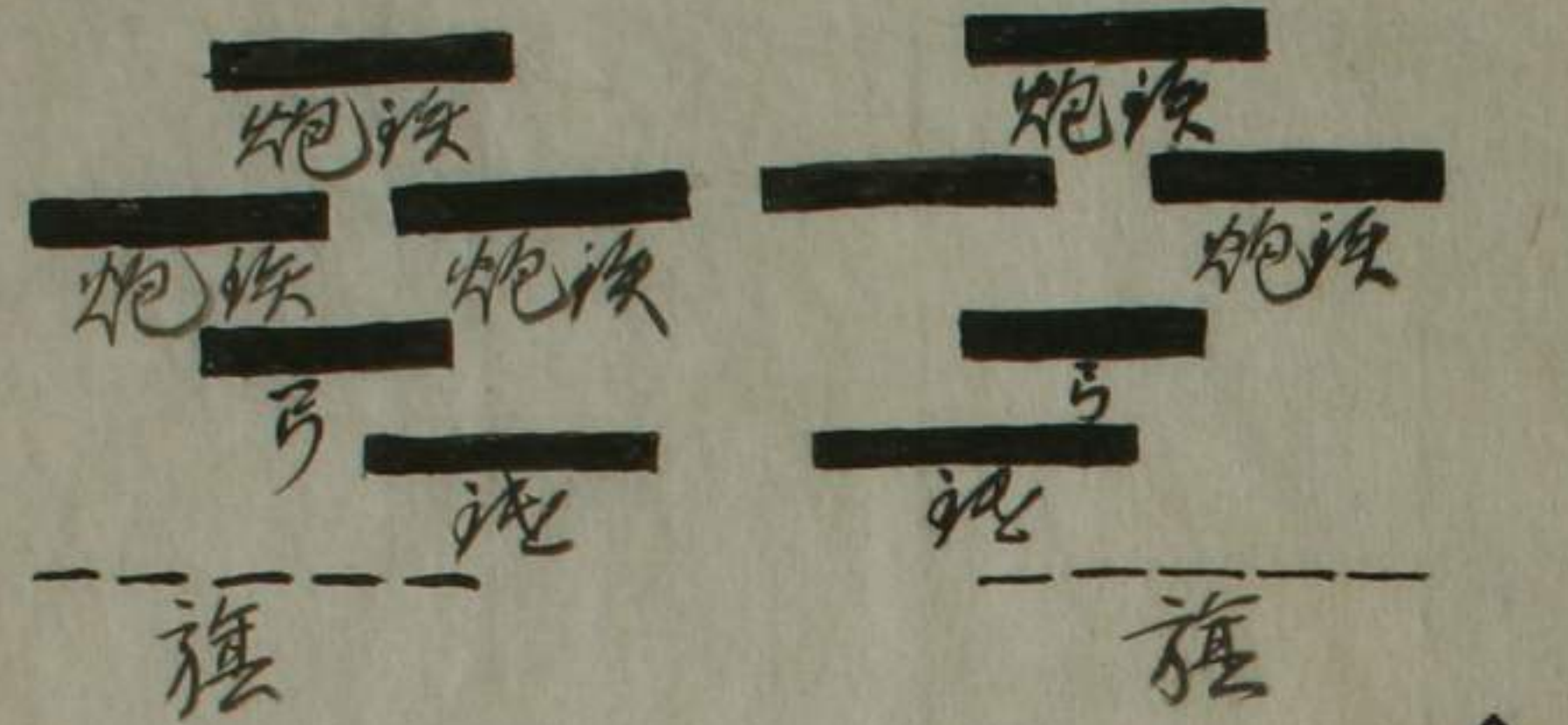
備  
月之備

以後之時鐵炮起打



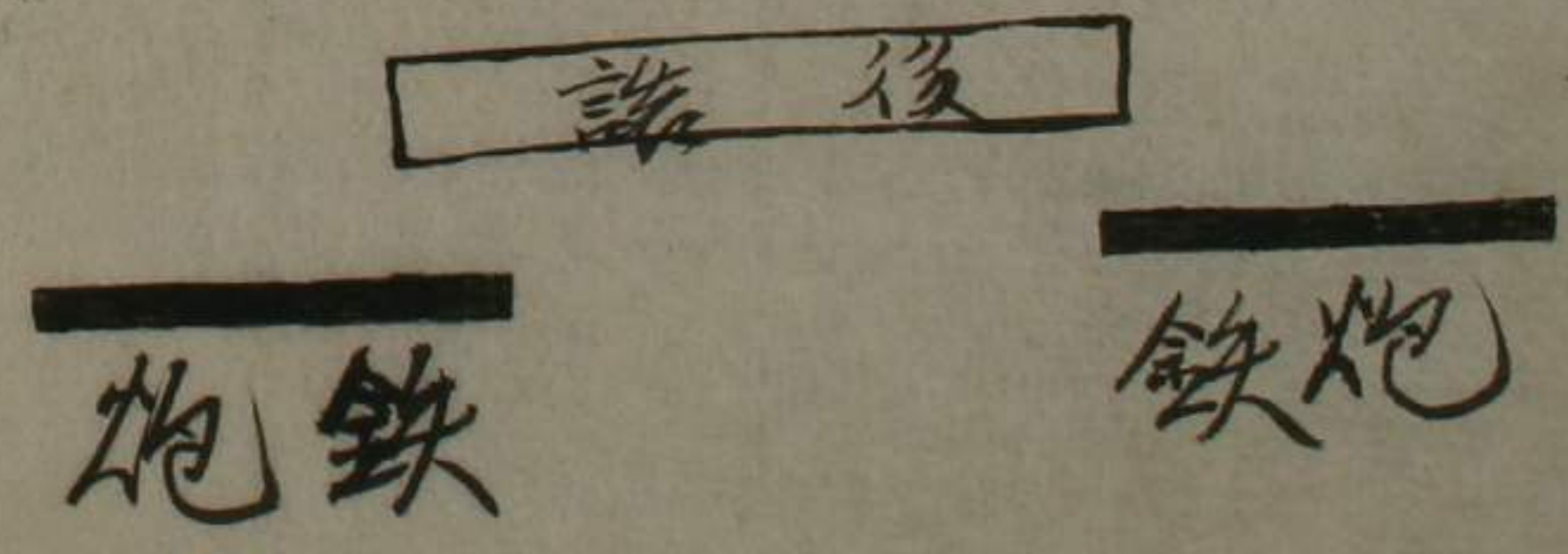
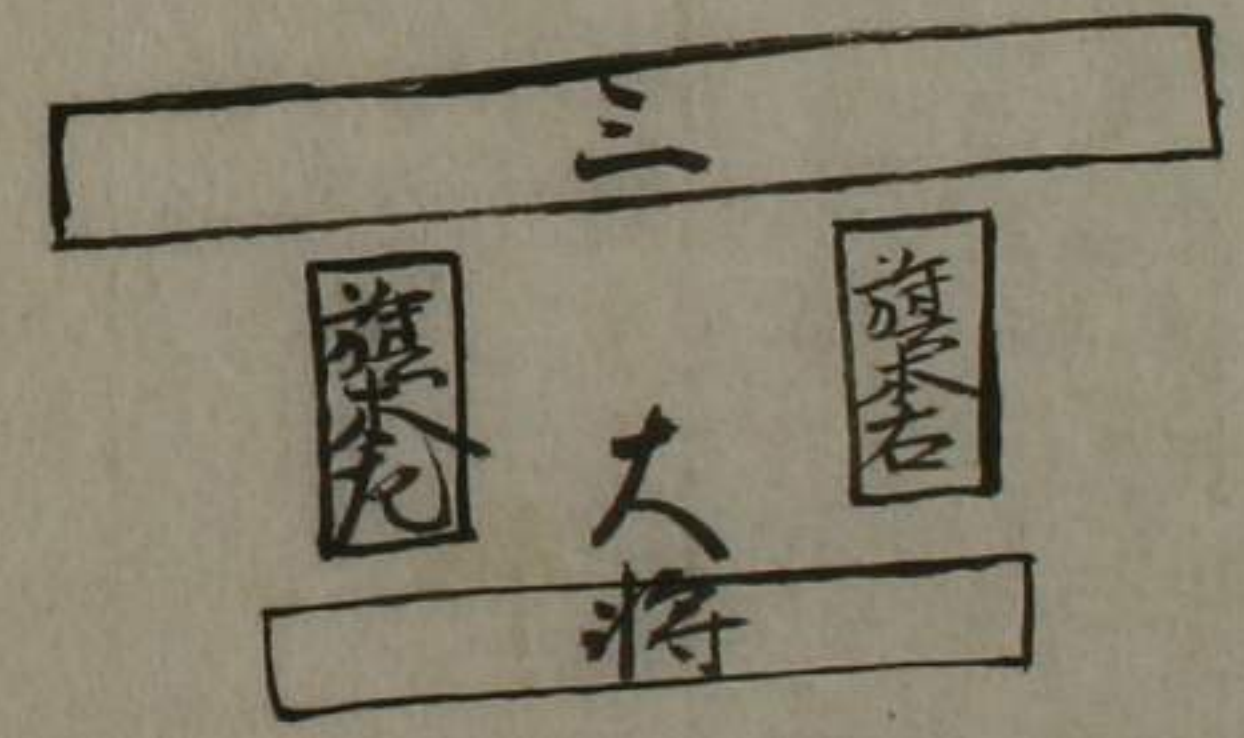
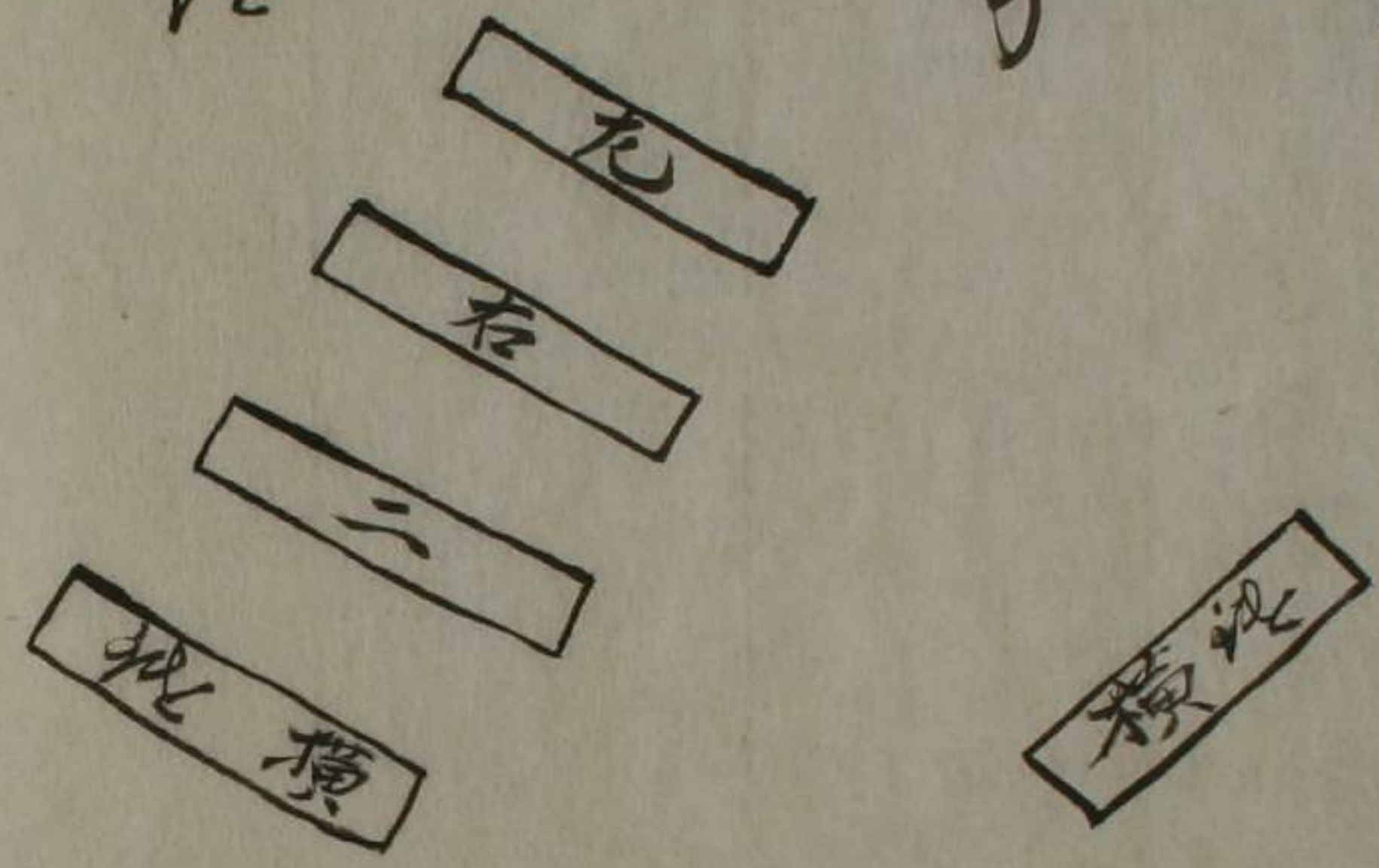
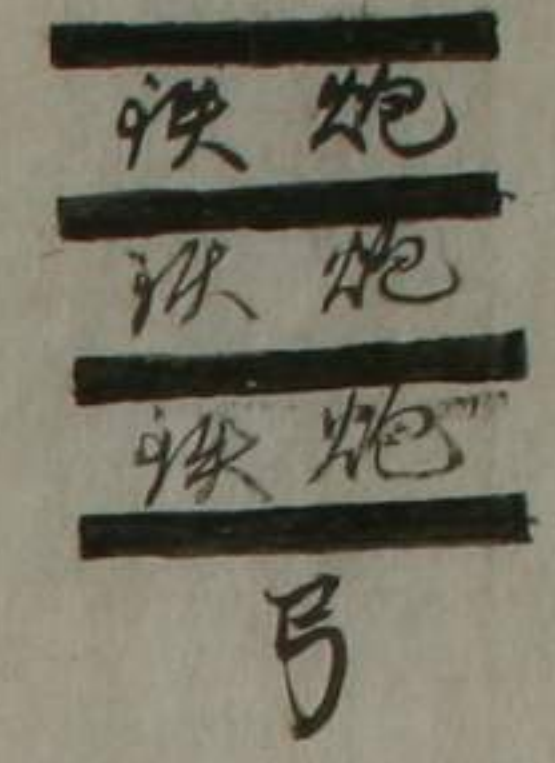
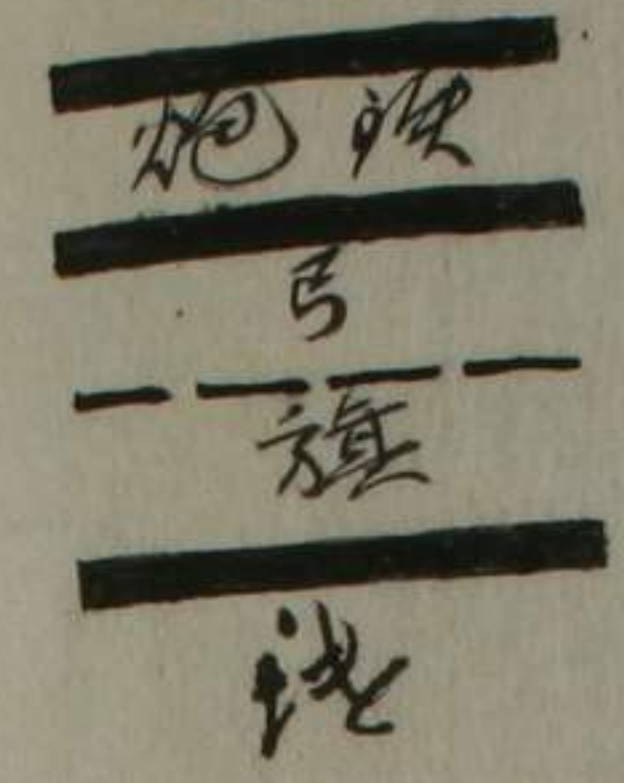
魚鱗之備





衡  
軌  
之  
備

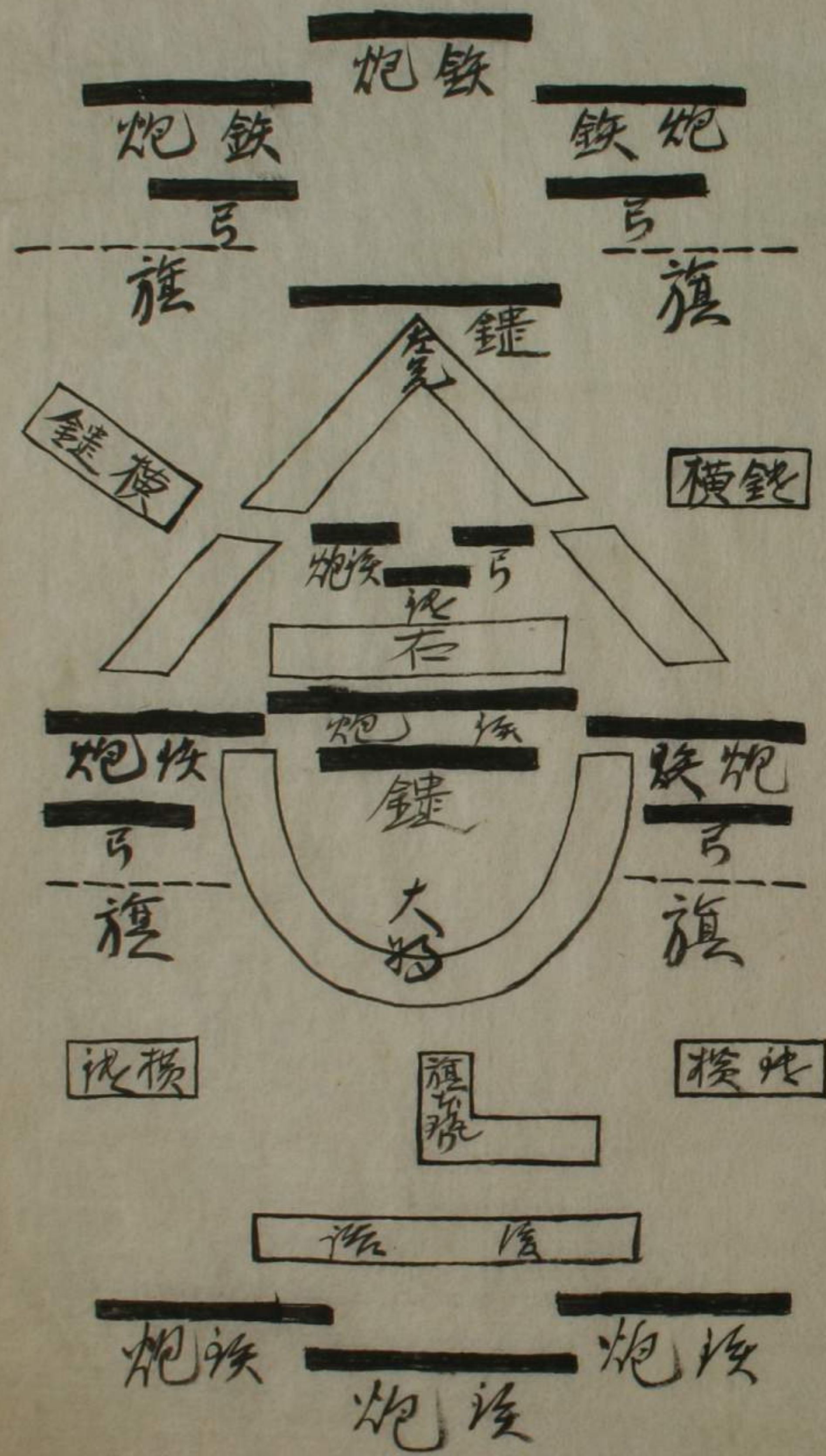
以  
任  
時  
鉄  
炮  
相  
打



長  
蛇  
之  
備

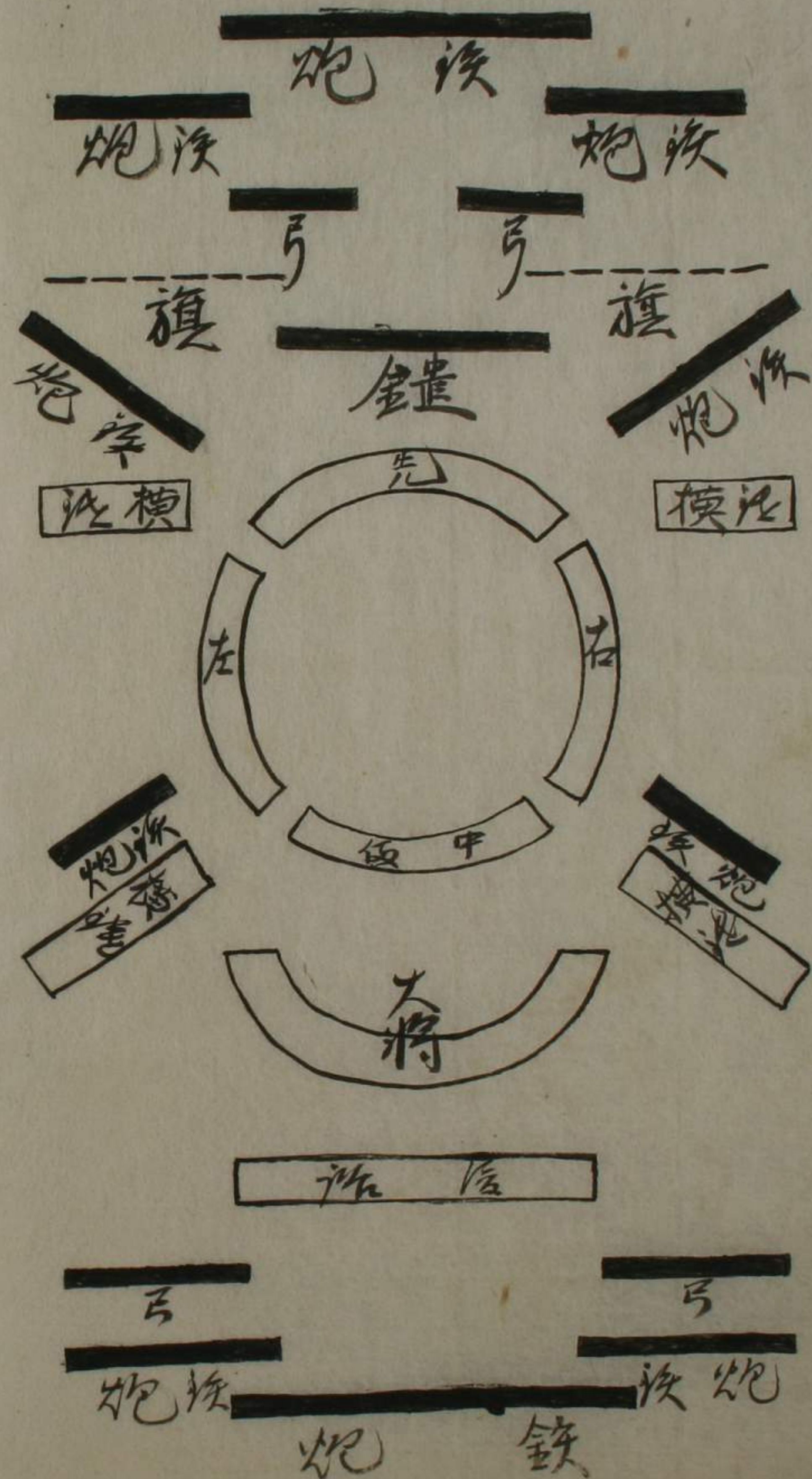
此  
備  
之  
時  
鉄  
炮  
相  
打





行行之備

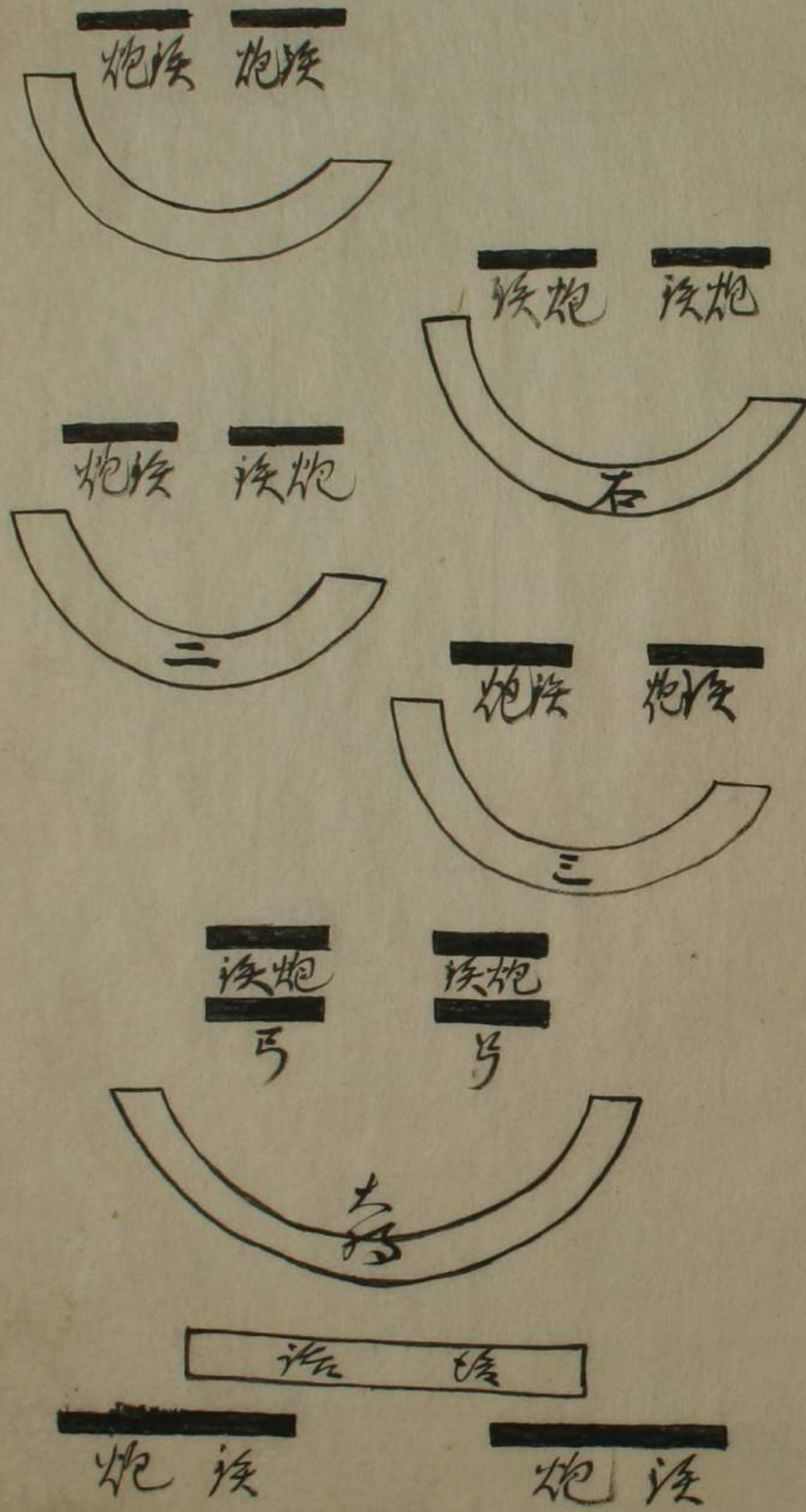
行行之備



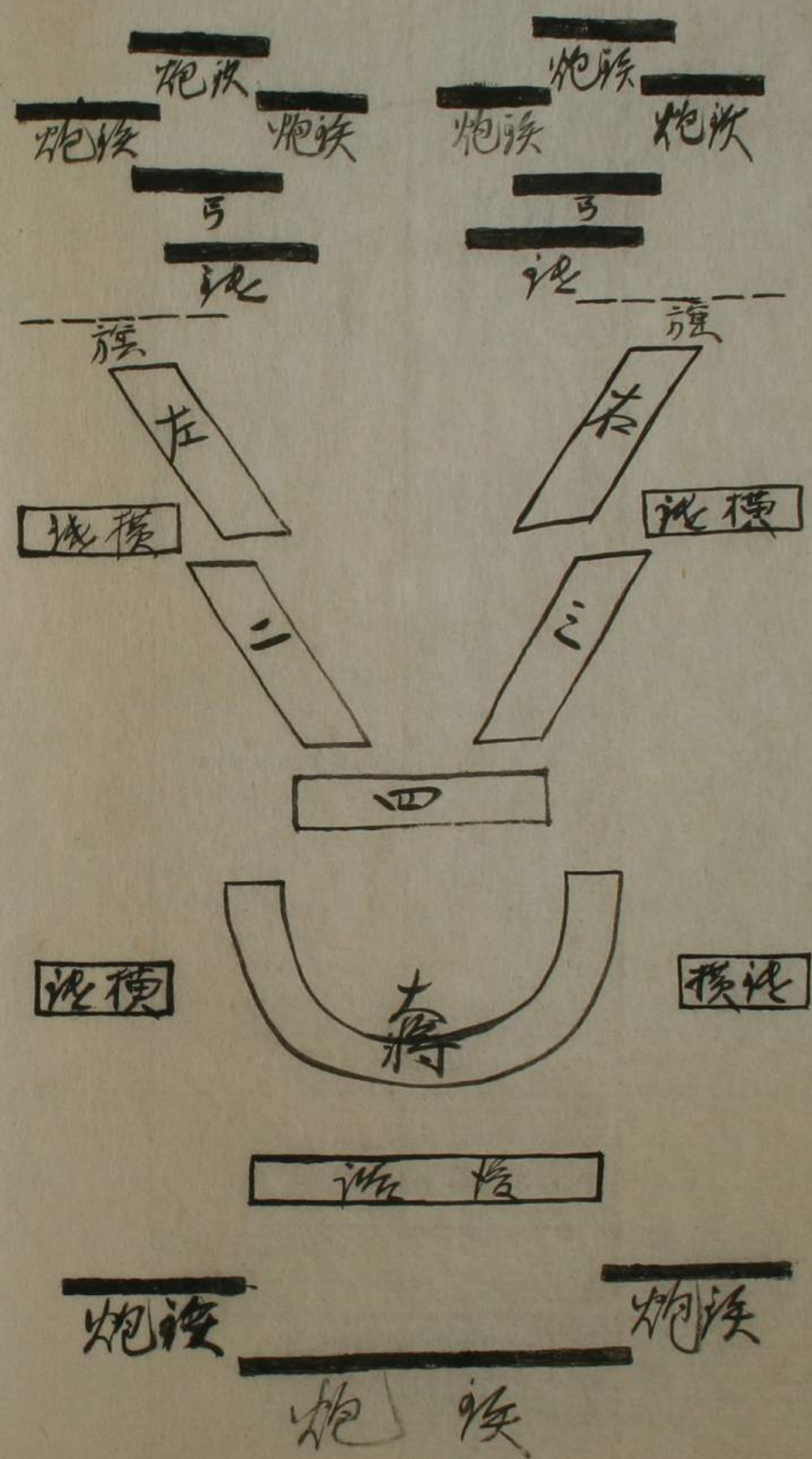
方圓之便

行行之備





雙手之後



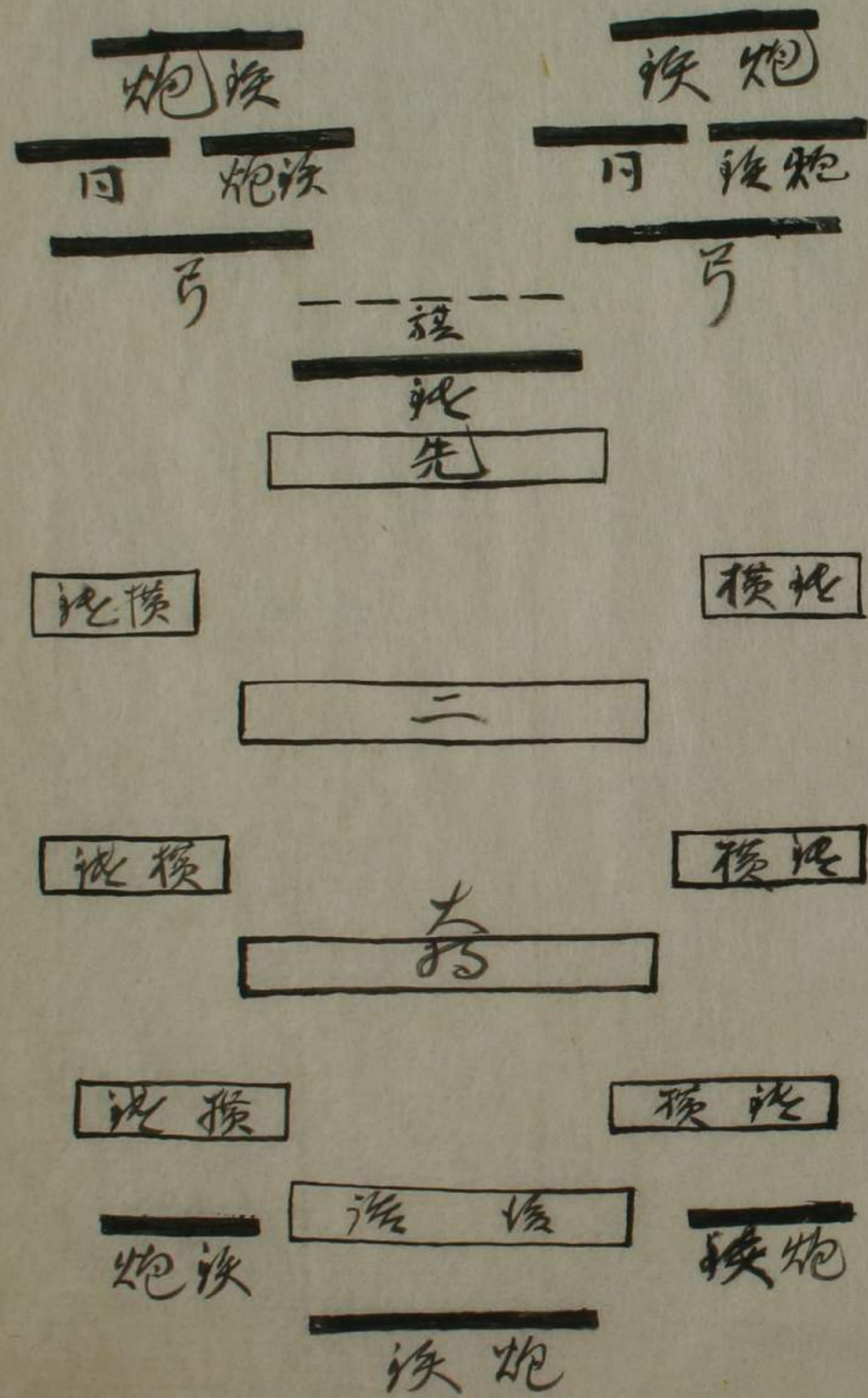
雙矢之後

以手之將換炮如打



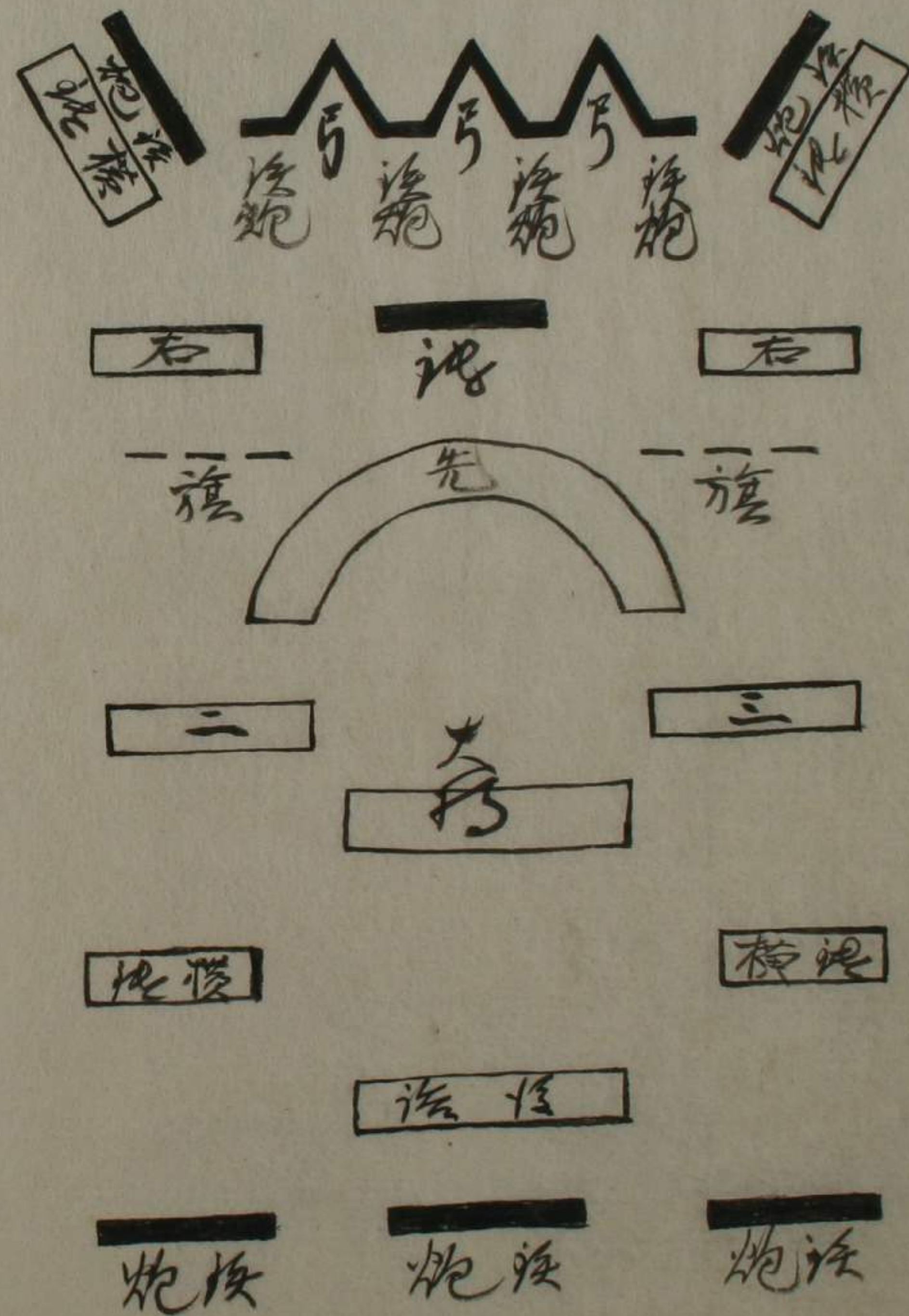






一手別日之收

日後三時法炮如子



一手別日之收



炮後 同  
炮後  
同

同 後炮  
炮後  
弓

旗  
先  
二

大花道  
弓

同 炮後  
同  
弓 弓  
旗  
旗

後炮  
同 後炮  
同  
弓 弓  
旗  
旗

紅白  
的  
旗  
炮  
如  
子

後中  
九

右

後炮  
炮後 炮後  
旗  
錢  
去  
右

炮後 炮後  
旗 旗  
炮後

炮後 炮後  
炮後 旗  
旗 旗  
炮後 後炮  
後九 後中 右後

炮後 旗

三

旗 旗

去  
右

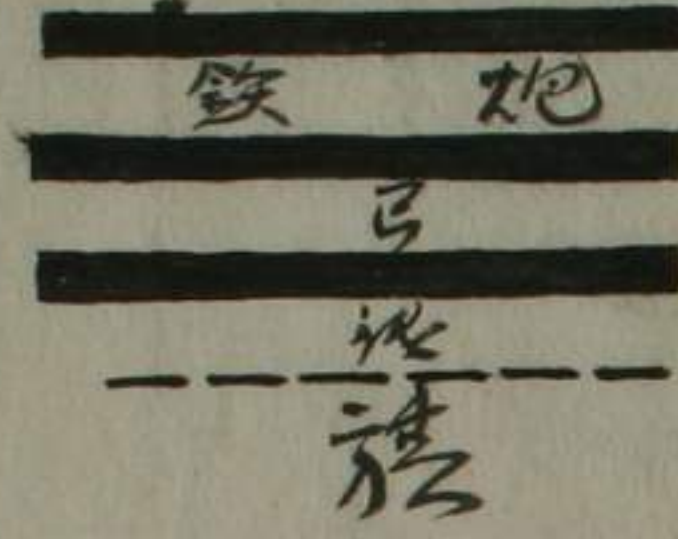
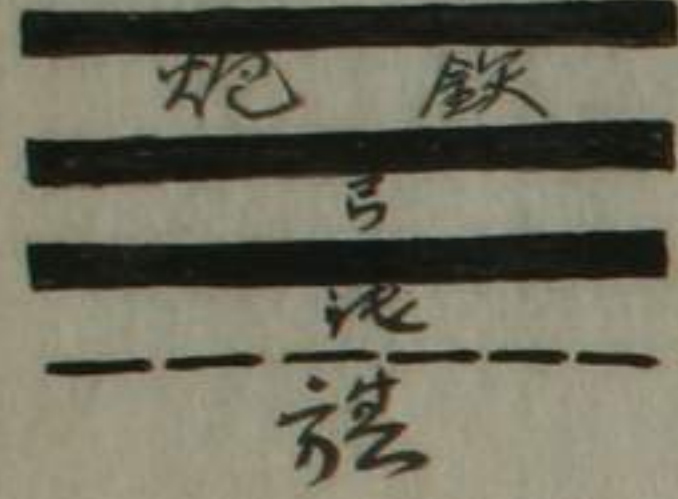
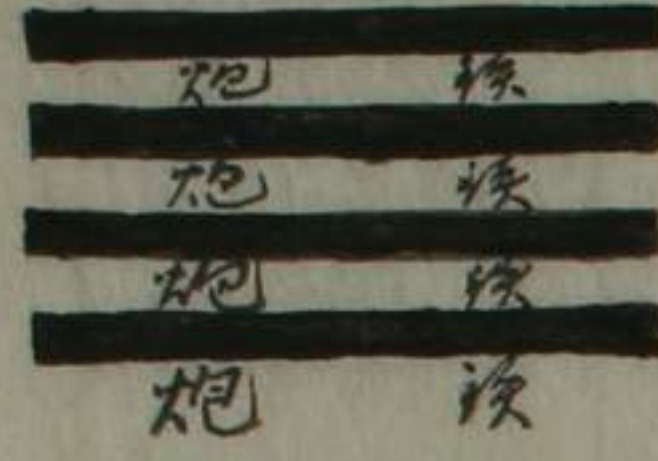
旗 旗

炮後 炮後  
炮後 後炮

別子一手之役

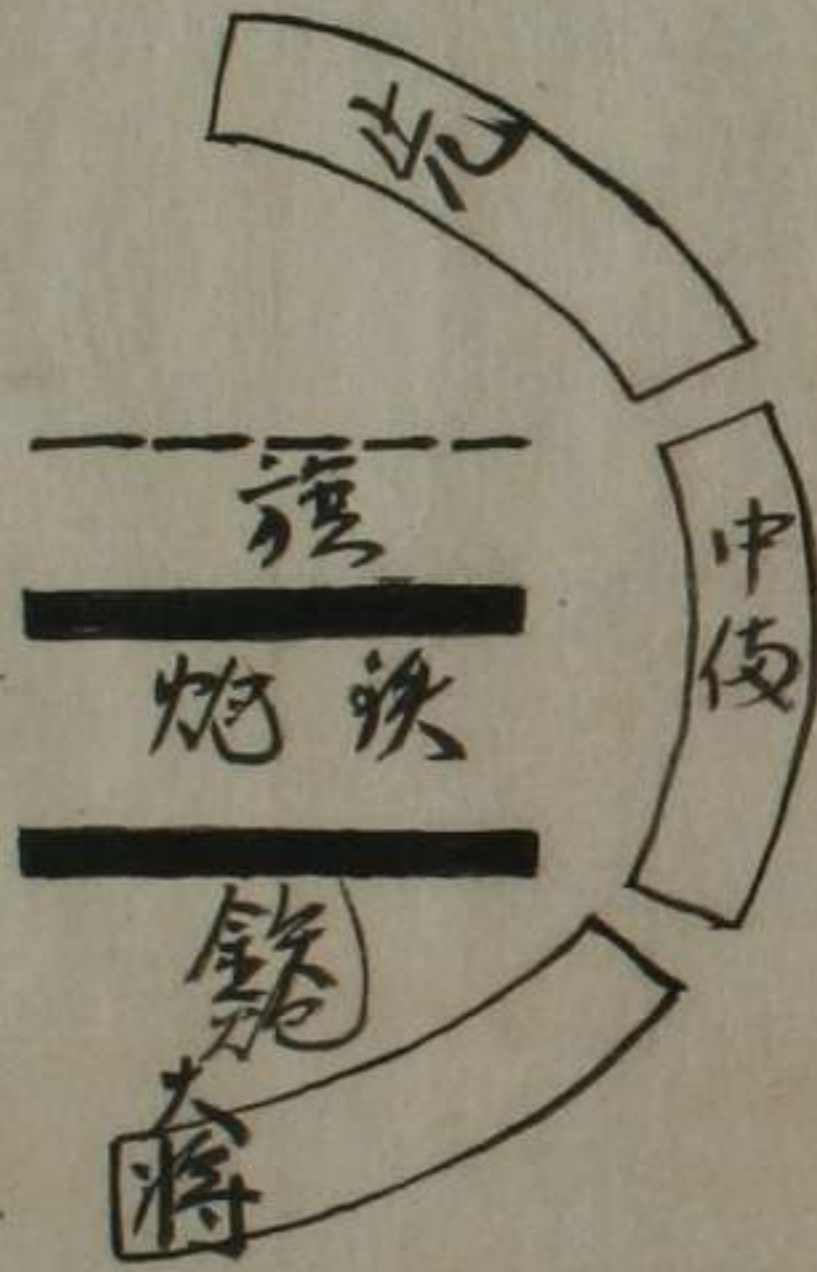
紅白  
的  
旗  
炮  
如  
子





炮 旗

旗



旗

旗

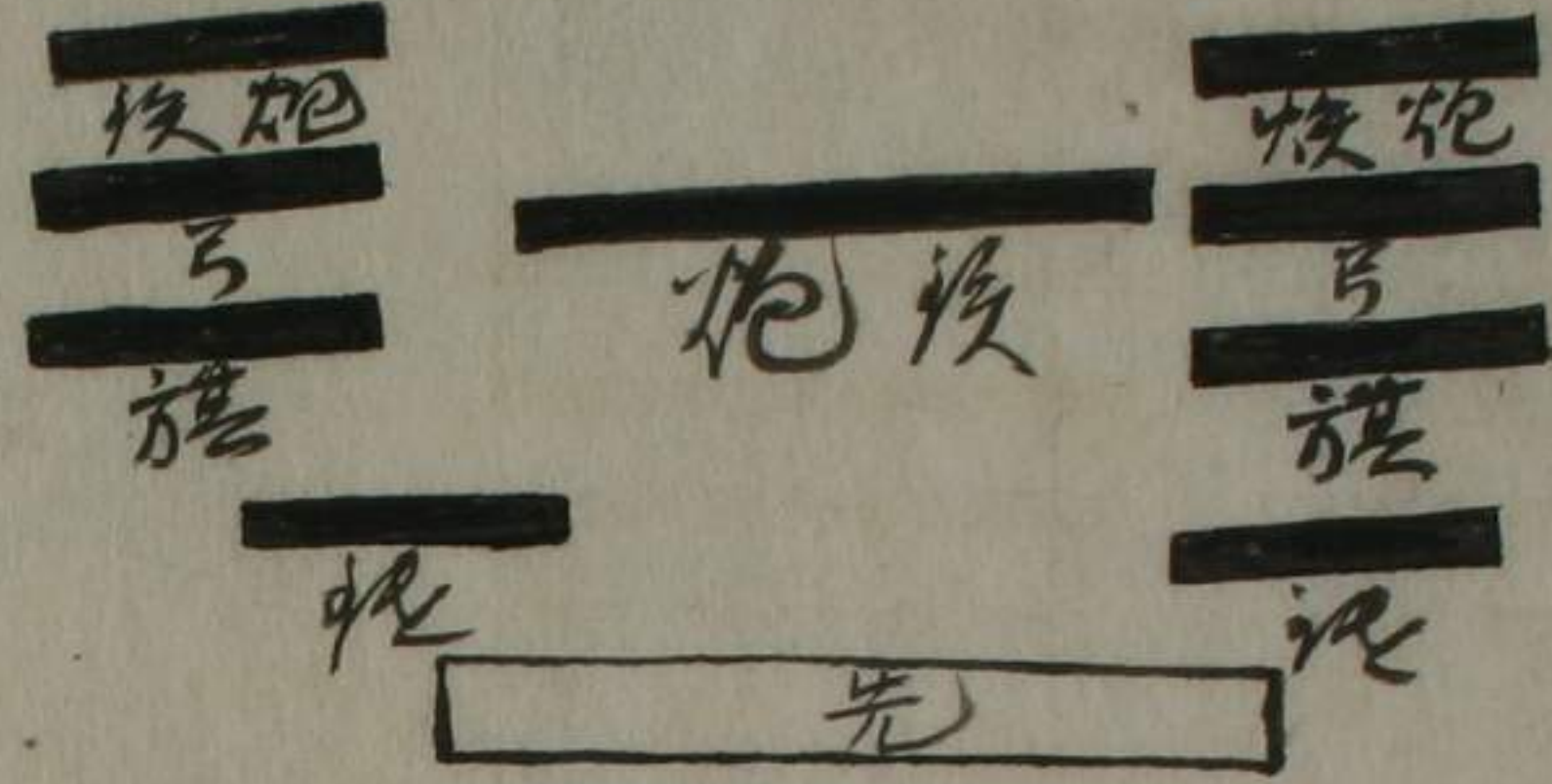


旗

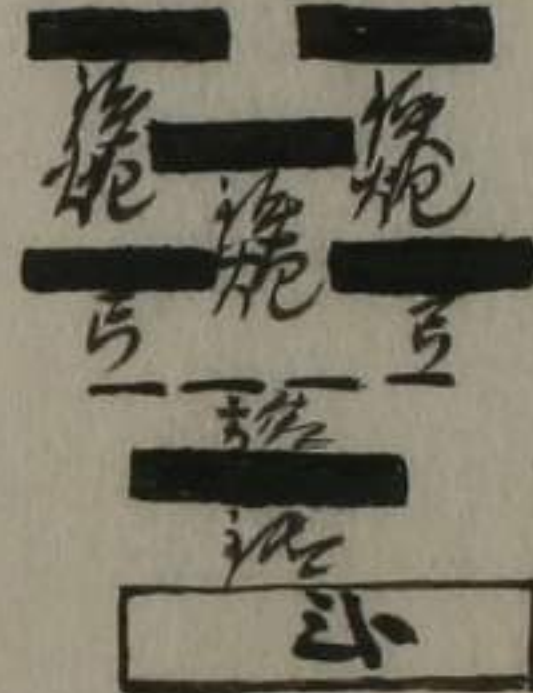
# 遊軍之役

以後所設砲架

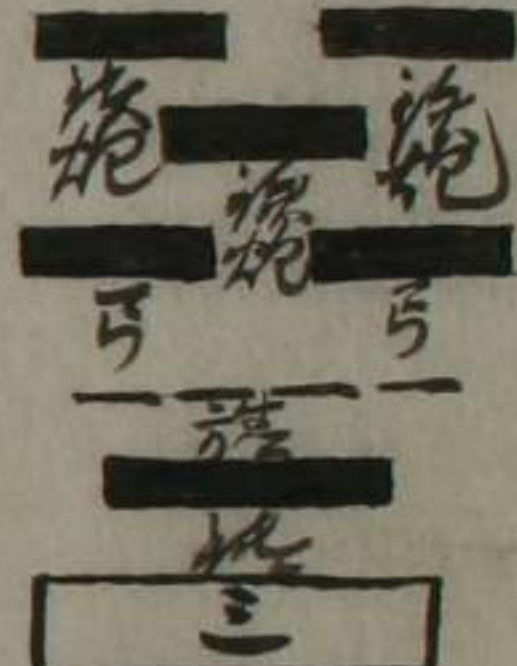
# 六炮之備



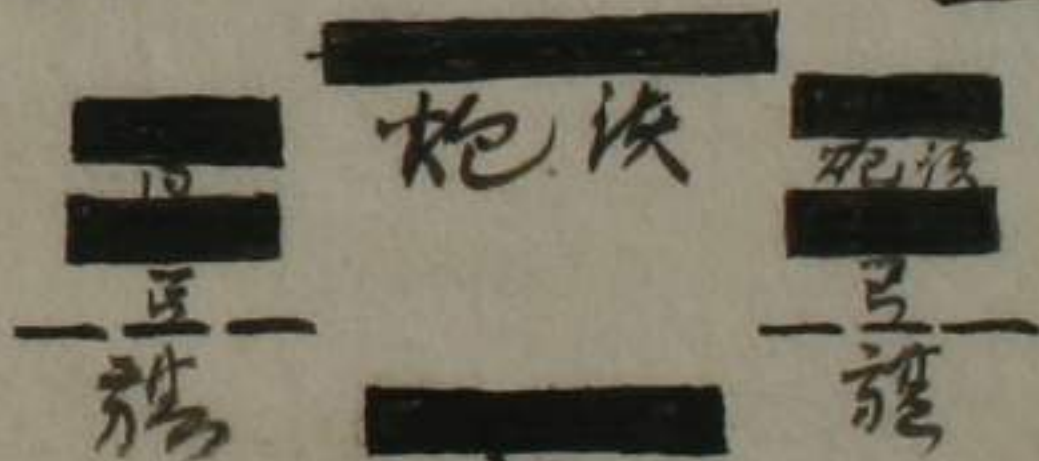
先



旗



旗



先

旗

旗

旗

旗

旗

旗

此後所設砲架







一文字之備

鐵炮

鐵炮

左

右

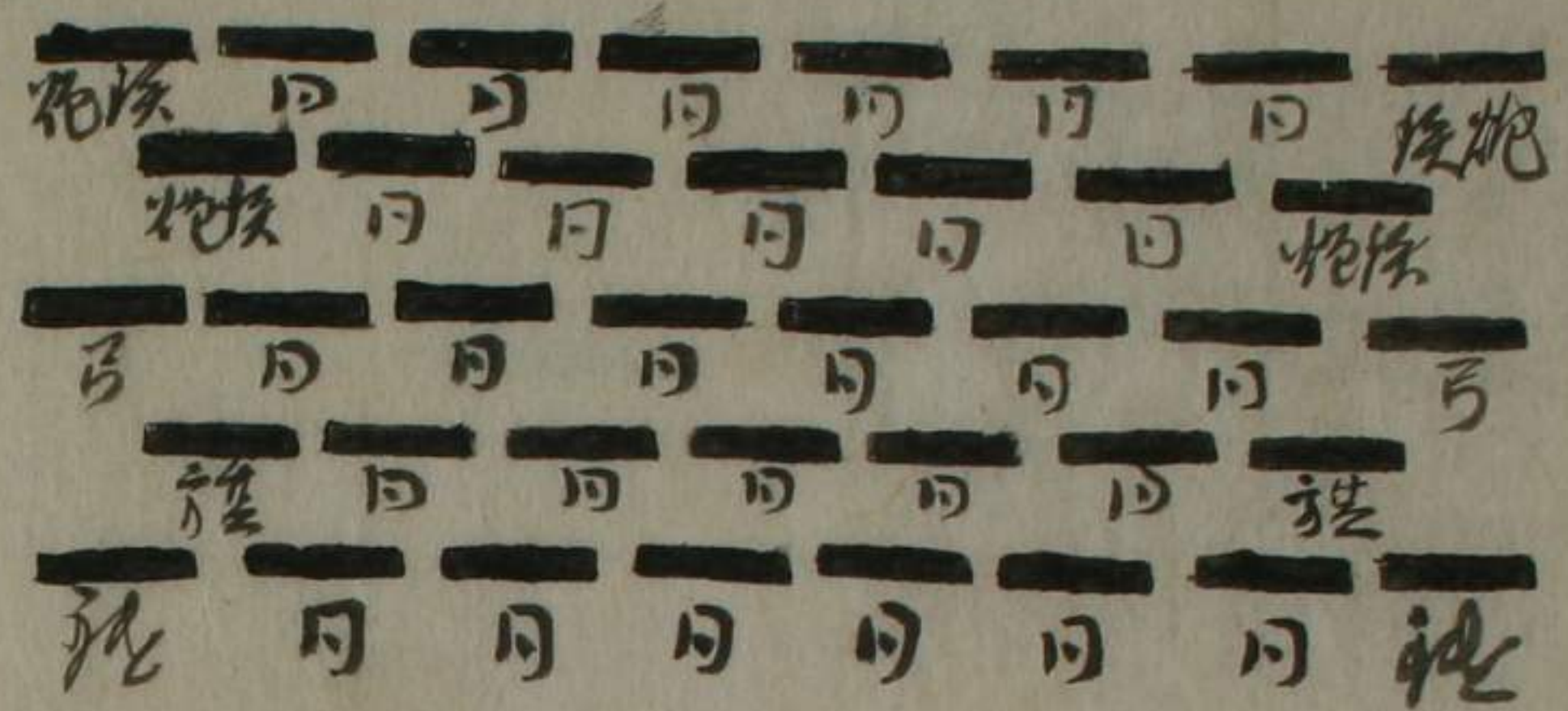
炮換  
弓

炮換  
弓

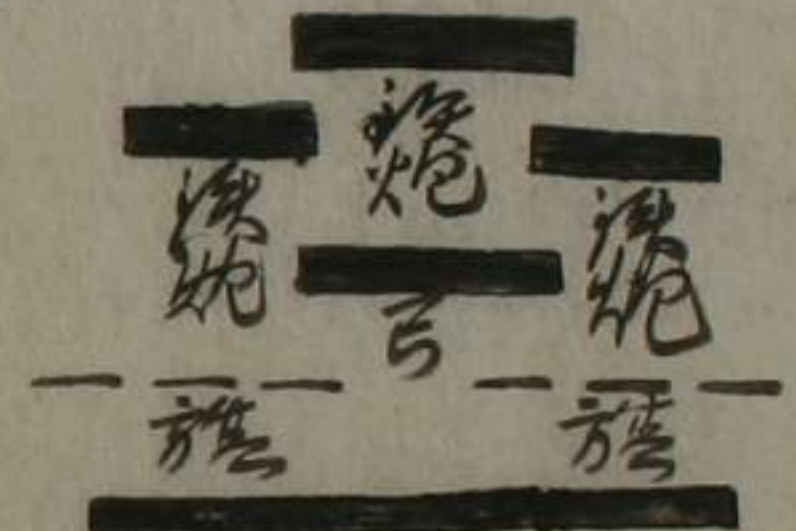
右

炮換

鐵炮

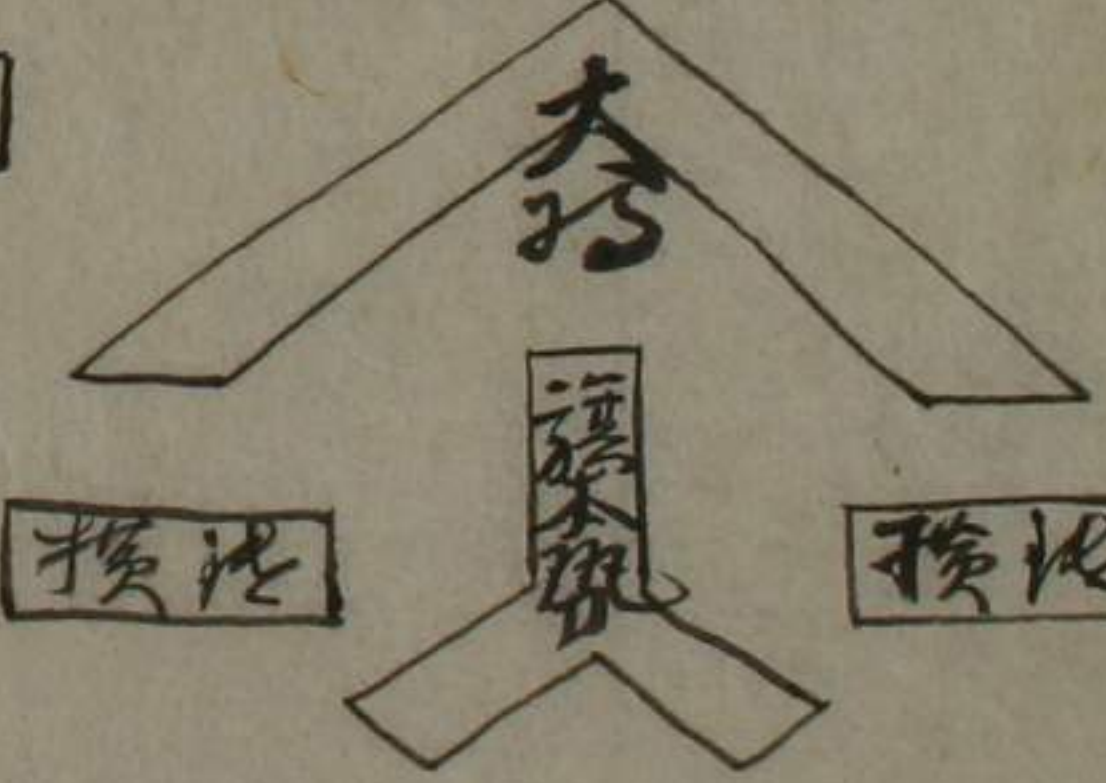


兩蛇之夜



換炮

換炮



換炮

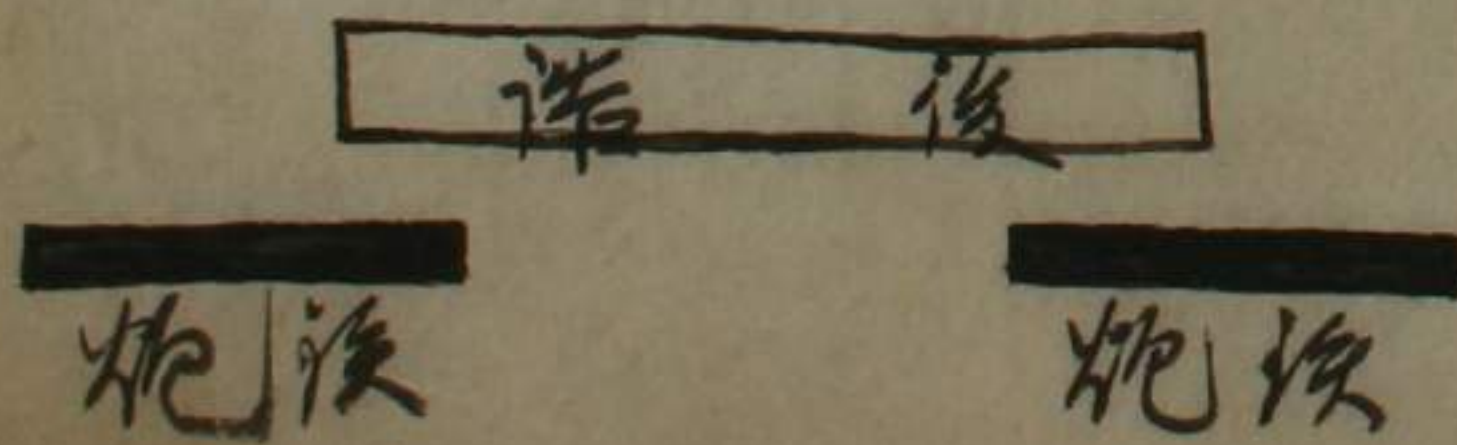
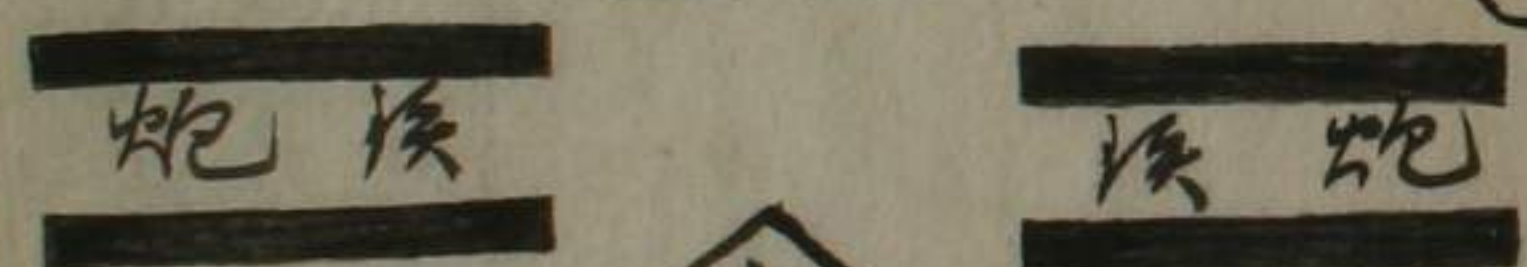
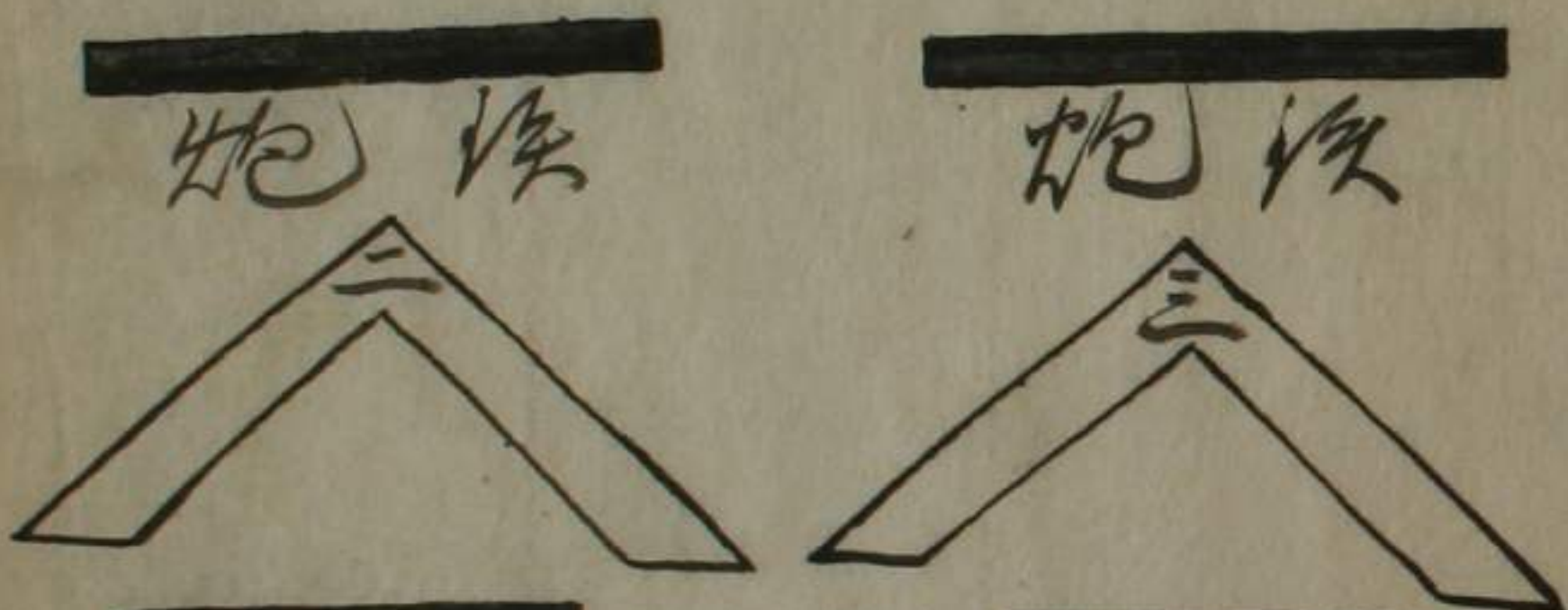
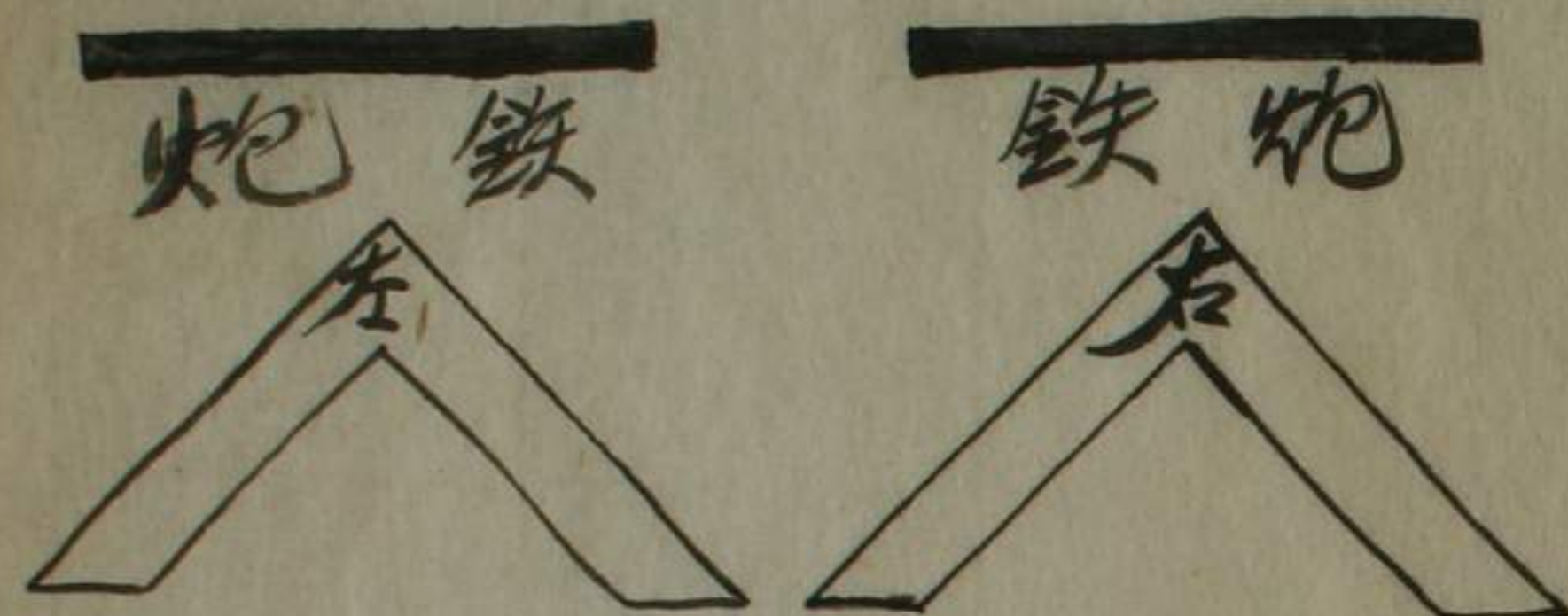
換炮

換炮

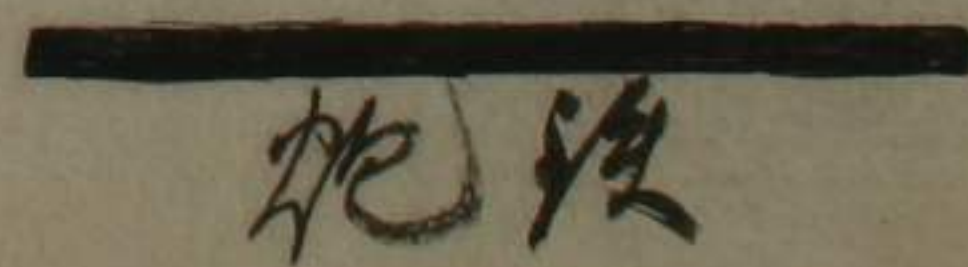
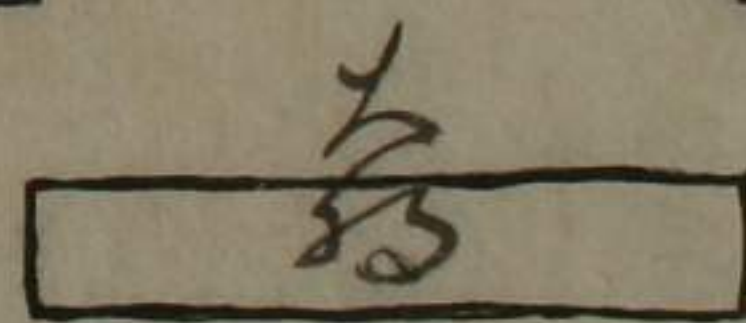
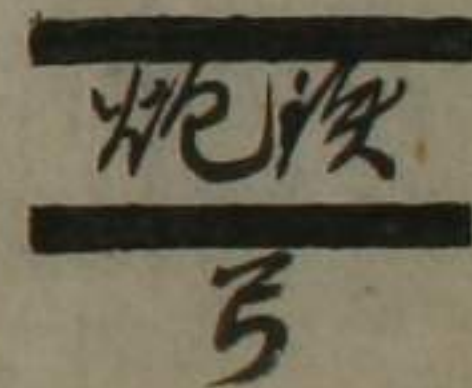
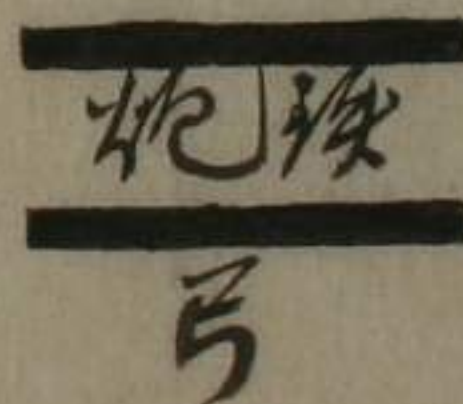
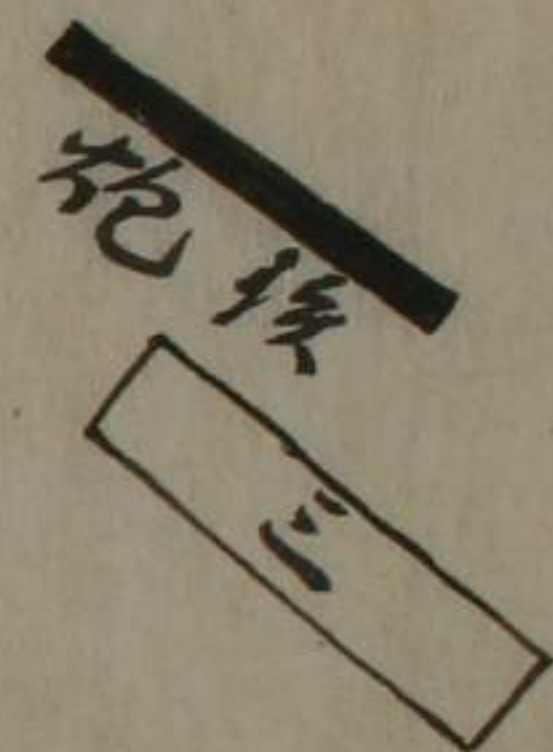
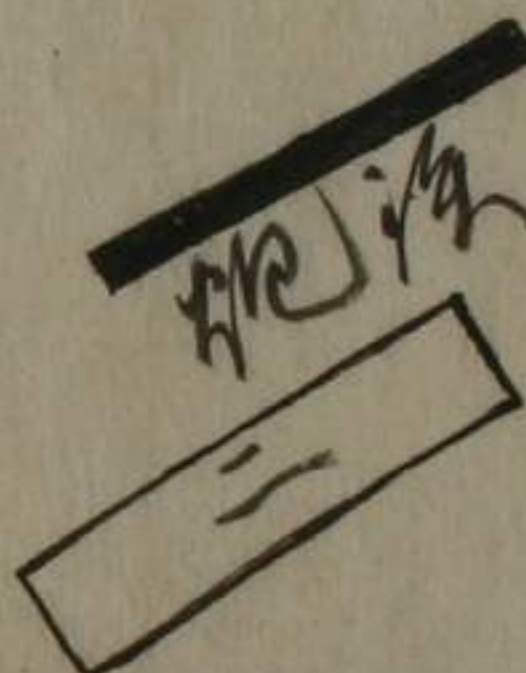
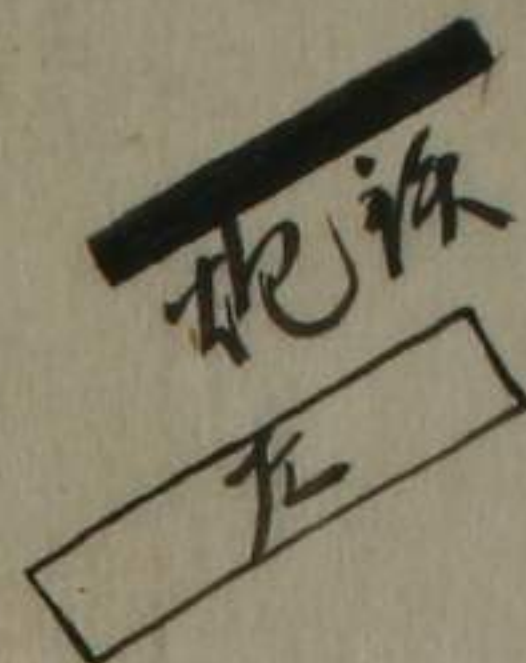
炮換 鐵炮

上白一可換炮也



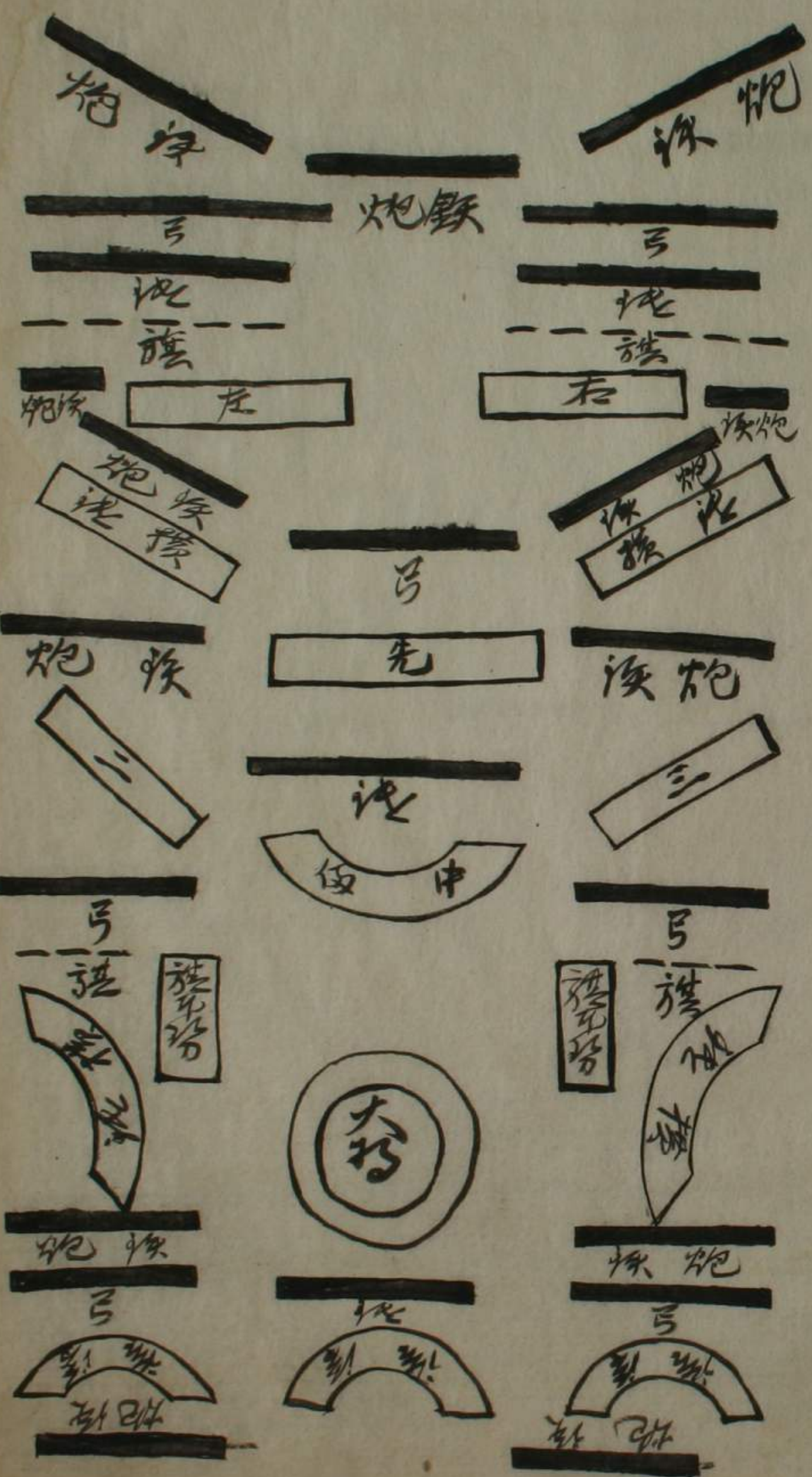


鈕先之改

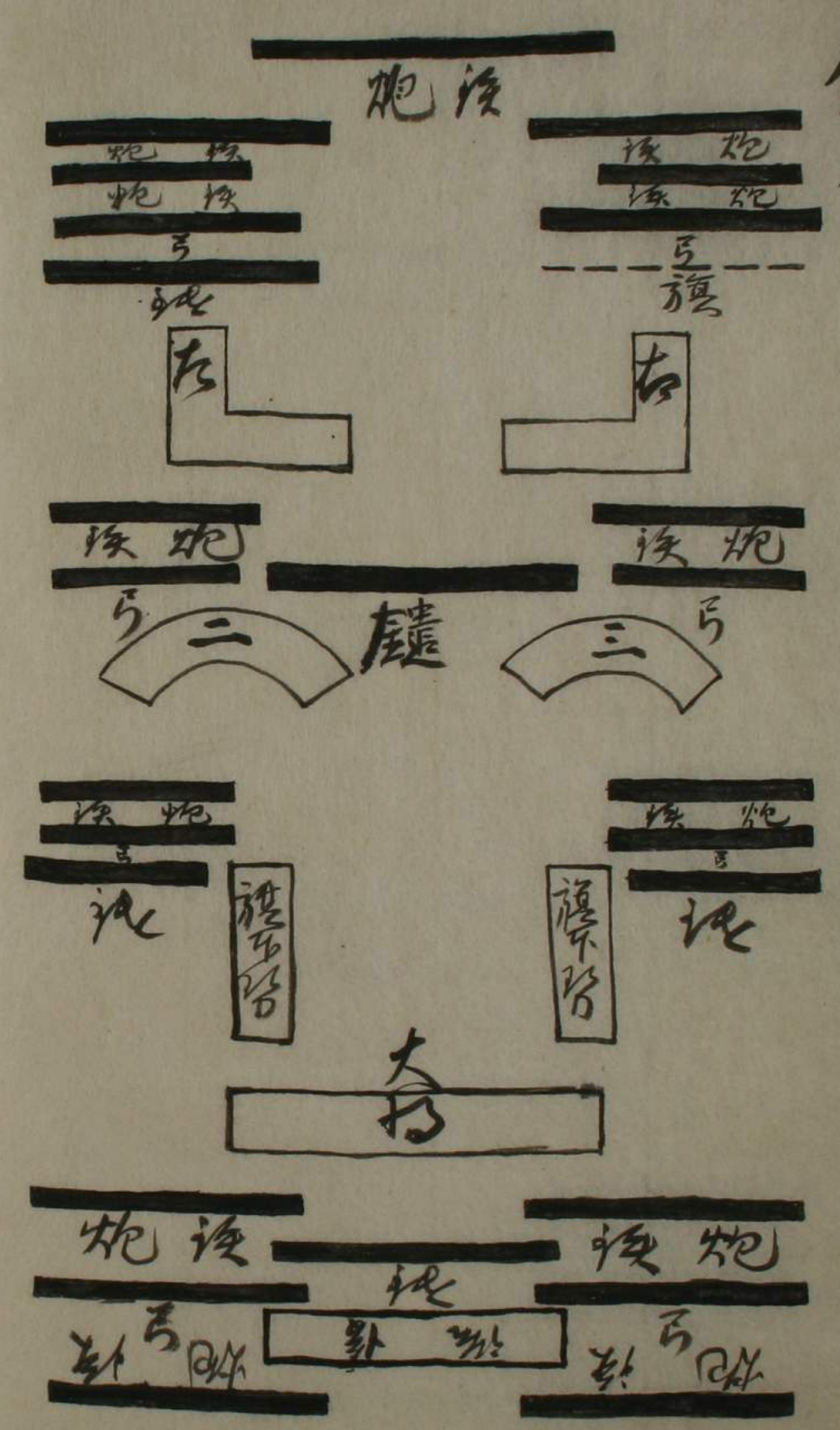


八文子之備





鶴  
 翠  
 直  
 之  
 後



鎬  
 備

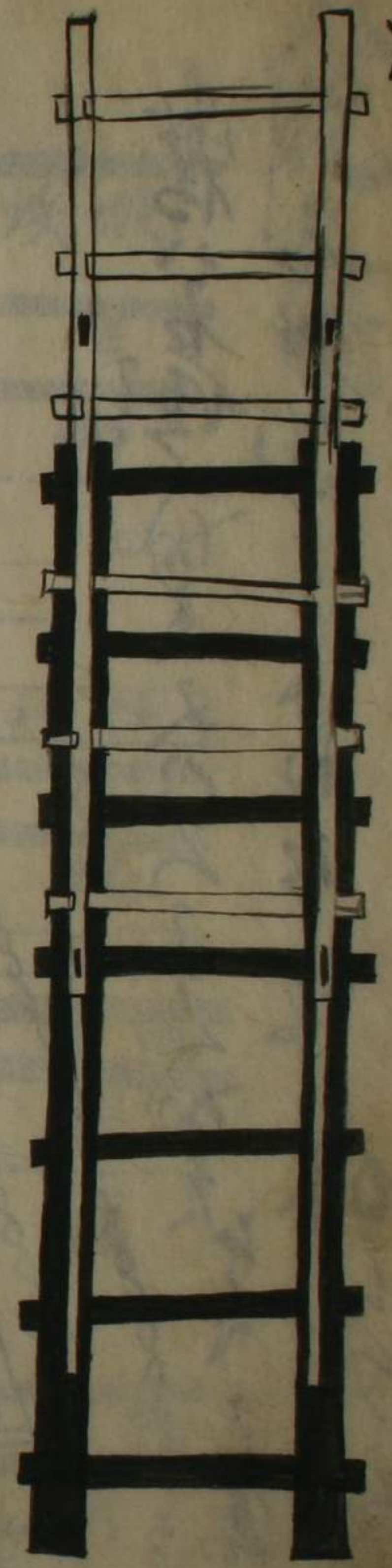
丁  
 海  
 丁  
 時  
 整  
 炮  
 如  
 行





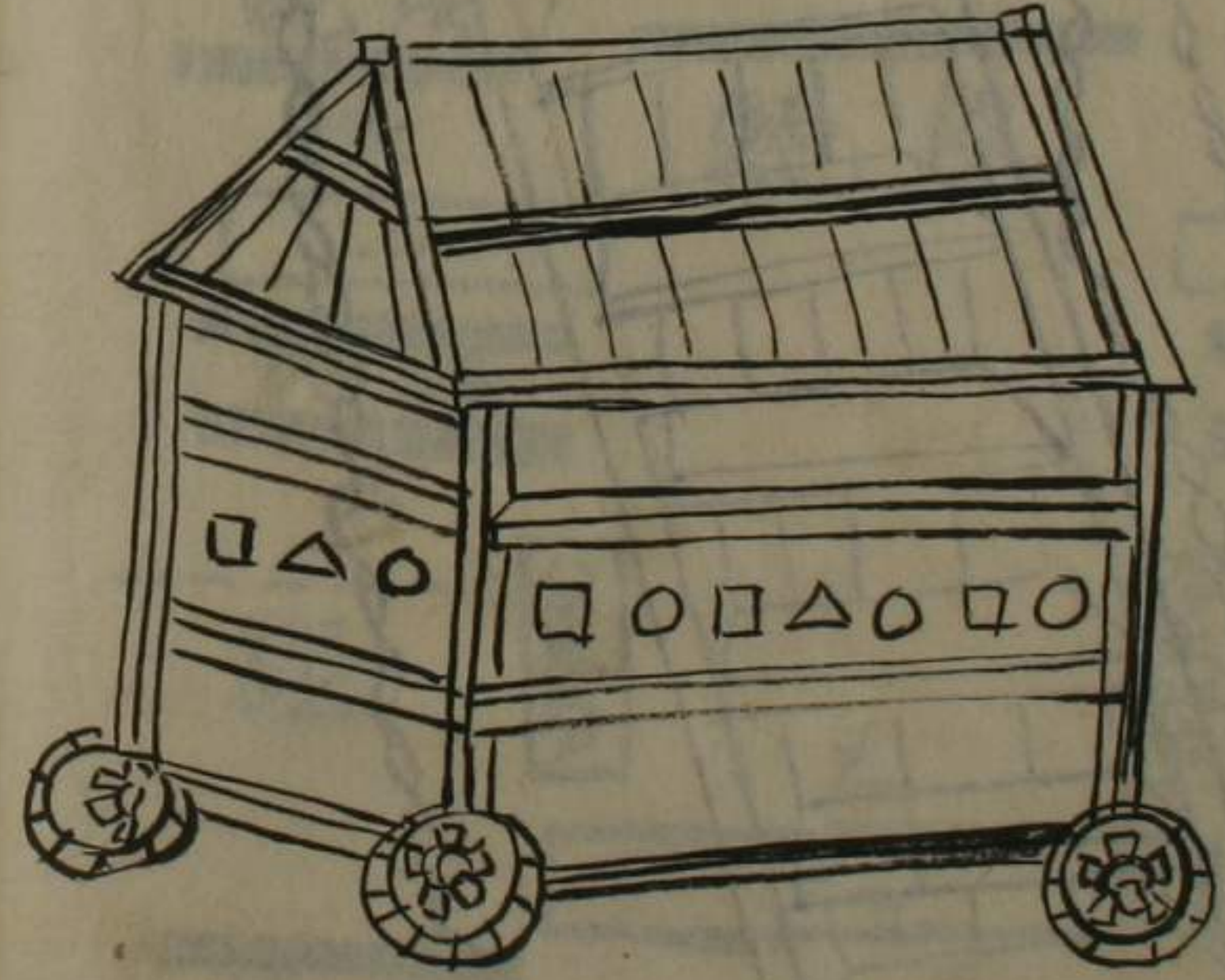


継橋



鉄サイノウ

是八回作仕家用之



十八日



